日本婦人の体型学的研究補遺

日本医科大学解剖学教室 (主任 横尾安夫教授)

小 山 穰 治

Zyozi Koyama

緒 言

日本婦人の体型についての研究として、阿部(1955)は主に近畿地方の成人婦人 206 例についてその体型を細長・中肉・肥満の三つに分類し、三体型相互間で比較的差がはつきりして居るのは各周径、大転子間径、体重で、肥満型では横の発育が良好であり、細長型では長軸方向の発育は普通であるが特に胸郭の発育が他型に較べ劣つて居るのが目立つて居る。男女差については身長を始め各数値は男性の方が優つて居るが、腸骨櫛間径、大転子間径では明らかに女性が大きく、部分的には胸囲や腰囲・下腿囲も大きい。比例からする男女差は、男性の胸囲に対する肩幅は女性より著しく大きく、女性では腰・骨盤の幅が胸郭の幅に対して大きい割合を示し、又男性に較べ身長割に体重・胸囲小さく、又軀幹の容量も小さいという。

高橋(1939)は京城で 20~40 才の内地婦人 531 例と朝鮮婦人 500 例とについて一般の身体計測の他に 5 種の骨盤外計測を行い、一般体型を Pignet-Vervaeck 示数によつて狭長型・正常型・広身型の三型に分類して居る。それによると朝鮮婦人は内地婦人より狭長型に傾いて居て縦軸の方向に長く、幅が狭く、厚さが薄い。然し骨盤及び頭部では却つて横軸に向つて広がつて居り、骨盤では外結合線が短く稍々扁平骨盤の傾向があり、頭部では頭囲・頭長が小さく頭幅が大きいという。

馬場(1947)は大妻技芸女学校生徒の 14~31 才の婦人 606 例について年令別に計測検討した。実測値について各年令を通じて発育著明なものとして身長・胸骨上縁高・肩峰高・恥骨結合高・肩峰幅・胸囲・坐高・骨盤幅(腸骨櫛間径)など、発育緩徐なものとして胸前後径(著者の胸厚に B' 相当す)・胴長・腹囲・腸骨前上棘高など、殆んど発育に変化のないものとして胸左右径(著者の胸幅 B に相当す)・大腿囲などを挙げて居る。示数値については年令と共に増加するのは比坐高・比胸囲・比肩峰幅・胸郭示数などで、変化のないものは比骨盤幅・比腰囲・比胴長であるとい

う。又殆どの計測値が 14~15 才の期間に発育が急増を始めて居るにも拘らず、恥骨結合高・腸骨前上棘高・下肢長は遅く 17~18 才の間に急増しており、示数値では 17 才以后に急増を示すものはないと述べて居る。

本多(1942)は石川県能登島人の男性 129 例、女性 141 例の全身を計測してその性差を検討し、男性の体格は女性に比べ全般的に大きく、身体各部の比率については男性は女性よりも胸部の発達に優り、女性に於ては腰幅(大転子間径)及び最大大腿囲の発達が盛んな傾向にあると報告して居る。この際の胸部の計測は胸骨中点の高さに於ける胸幅・胸厚及び胸囲を取つて居る。

林等(1955)は小学生の男女合計 2,544 例について身長・体重・胸囲・腹囲・上膊囲・胸左右径・胸前後径・肩峰幅・骨盤幅の各々と、他の身体諸測定との間の相関について研究した。軀幹の厚径四測定(胸左右径・胸前後径・肩峰幅・骨盤幅)相互間の相関係数 6 個の中で、最も大きいのは胸左右径対骨盤幅相関で、最も小さいのは胸前後径対肩峰幅相関である。軀幹の厚径四測定中の一測定と三大主要測定(身長・体重・胸囲)中の一測定との間の相関では、身長は肩峰幅に対して、胸前後径は胸囲に対して、肩峰幅は体重に対して、骨盤幅は体重に対して夫々最も高い相関を示して居るという。

五反田等(1958)は栃木県の男性 86 例、女性 60 例について 8 種の骨盤外計測を行い、性差及び他地方人との比較をして居るが、身長と骨盤諸径・骨盤諸径相互間及び骨盤の形態と年令との相関について調査して居る。男性は身長も最大骨盤幅(腸骨櫛間径)も共に日本人の中位にある。女性の身長は矢張り中位であるが最大骨盤幅は他の人の報告と較べて見てかなり広い方であるし、外直径(外結合線)・寛骨深及び腸骨幅(側結合線)はそれにも増して大きい。男女を比較すると、男性は身長が著しく大きく、骨盤諸径では腸骨幅のみ女性に較べて稍々優つて居るが他は全て女性

に劣つて居る。身長と骨盤諸径との間には全て順相関があり、骨盤の形態と年令との間には殆んど相関関係はないという。

益野等 (1958) は新潟県男性 135 例、女性 123 例について五反田等と全く同一の目的と方法で研究し、略々同様の結論を得て居る。

奥脇 (1952) は山梨県の男性 120 例、女性 27 例の骨盤について 7 種の計測をして居る。男性は他地方に比べて身長・体重共に日本人としては普通であるが、骨盤幅は至つて狭く著明な特長を示して居る。女性には身長が少々低い骨盤幅・腸骨前上棘間径・外直径・寛骨深は他の地方の計測値と較べて大きい方である。男女の性差としては最大骨盤幅・腸骨前上棘間径・外直径・寛骨深は女性が大きく、腸骨幅と大転子間径とは男性が大きい。身長と骨盤諸径との間には悉く順相関があり、骨盤径線相互間にも順相関を見て居る。

鈴木 (1950) は妊娠初期のものを含めて成熟婦人 324 例の骨盤について 10 種の綿密な計測を行つて居る。

そして骨盤体積示数 $\left(\frac{\text{腸骨間径} \times \text{外結合線} \times \text{寛骨高}}{100} \right)$ 骨盤幅深示数 $\left(\frac{\text{外結合線}}{\text{腸骨間径}} \times 100 \right)$ を考案して、前者は強度の扁平骨盤の場合は 56~60 という小さい値をとり、後者は 65~75 位が正常で 60 以下 80 以上は異常と見做して良いという。

男性のみの計測例として田中 (1954) の例をとつて見ると、これは長野県伊那人の男性 140 例について 18 項目の計測をし、その中特に胸郭については胸幅を 5 種、胸厚を 5 種、胸囲全周 3 種、胸囲半側周 2 種、胸囲前半周 1 種を計測して居り、2 種の胸郭横断面積を計算して居る。又上腹角については 2 種の方法で計測して居るが、骨盤については腸骨間径あるのみである。そして他の同県下 6 カ村の計測例と比較して身長を始め長径は大きく、肩峰幅・腸骨間径は小さく、又胸囲は大きい方である。胸幅については 5 種の中剣状突起基部の高さが最も広く、胸厚 5 種については下方に行くに従つて大きくなつて居るが、胸囲は下方に行く程小さくなつて居る。胸郭長の左右差はいくらか左が大きく、胸郭の輪郭を見ると胸骨中点の高さより胸骨体下端の高さの方が扁平であり、胸郭横断面積も胸骨中点の高さの方が胸骨体下端の高さより大きく、且その各々の左右差は共に左側の方が大きい。上腹角についてペリジシ示数・ローレル示数・胸郭横断面積・胸囲・乳嘴幅と弱い相関を見て居る。肩幅・左右胸

郭長・胸幅 B・D・骨盤幅・乳嘴幅の胴長に対する比は、肩幅最も大きく、乳嘴幅が最も小さく、肩幅・胸長・胸幅・骨盤幅は何れも胴長の 1/2 以上であるという。

以上日本婦人の計測を見ると一般的な体型丈の計測と、骨盤丈の計測とに偏つて居る。その一般計測、就中胸郭の計測と骨盤の計測との関係を見る事によつて日本婦人の体型を明らかにすることが此の論文の目的である。

研究材料

東京都内に居住する満 20 才から満 49 才までの健康な婦人 143 名である。年令分布は表 1 の通りである。

表 1 年 令 分 布

年 令	員 数
20 ~ 24	4 1
25 ~ 29	3 7
30 ~ 34	2 7
35 ~ 39	2 4
40 ~ 44	6
45 ~ 49	8

出身地は全く顧慮しなかつた。

日本婦人の体型の完成については、部位により差があると言われて居り、泉・阪本によれば略々 16.7 才で骨盤が完成するとされ、山口、中山、円乗、阪本によれば女性の軀幹特に胸部は 20 才で完成するとの事である。発育が停止するのは下腹部・骨盤が早く、軀幹胸部は遅れるものの様である。

一般的に計測値が小さくなるのは略々 30 才以後(吉田・坐高)とされて居り、大部分は 40 才台に入つて徐々に退縮を始め 50 才台になると著明になり(中山、吉田、渥美)、男性が 50 才台から退縮を始める(中山)のに比較して約 10 年早く退縮を始めるとされて居る。

そこで完成された婦人として 20 才から 49 才迄の間を選んだ。

研究方法

計測期日は昭和 32 年 5 月から昭和 32 年 11 月に及んだ。計測項目は身長、頸点高、胸骨上縁高、肩峰高、臍高、腸骨前上棘高、腰点高、恥骨結合上縁高、坐高、肩峰幅、C-D、胸骨長、胸郭長(2)、胸幅(4)、胸厚(5)、胸囲(2)、胸郭横断面積(2)、上腹角(2)、腹部横径、腹部矢状径、腹囲、腰囲、腸骨前上棘間径、腸骨後上棘間径、腸骨間径、外結合線、外斜傾線、側結合線、大転子間径、大腿囲、下腿囲の 31 項目、此等測定値から胴長、腹長、比胸骨上縁高、比肩峰高、

比坐高, 比胴長, 比肩峰幅, 比胸廓長 (2), $\angle SCD$
比胸幅 (4), 比胸厚 (5), 比胸围 (2), $\frac{\text{胸骨長}}{\text{胸廓長}} \times 100$,
胸長示数 (2), 胸幅示数 (2), 胸廓示数 (2), $\frac{\text{胸骨長}}{\text{胸围}} \times 100$,
比腹围, 比腰围, 比腸骨前上棘間径, 比腸骨後上棘間
径, 比腸骨間径, 比外結合線, 比外斜傾線, 比側結
合線, 比大転子間径, 骨盤傾斜度, 櫛棘示数, 骨盤幅
深示数, 腰横示数, 胸腰围示数, 腹腰围示数, 脚围示
数, 肩幅骨盤幅示数, 肩腰横示数, 肩幅胴長示数, 肩
胸围示数, 胸围胴長示数, 骨盤幅胴長示数, 胸腰横示
数, 胸幅転子間示数の 41 項目を算出した。

胸幅は田中の方法と同様 A, B, D, E の 4 か所 (田中
に於ける胸幅 C は乳嘴位の為省略した)

A: 左右腋窩直下間の最短距離

B: 胸骨中点の高さにて最も側方に突出した左右肋
骨点間の水平距離

D: 胸骨体下端にて剣状突起基部の高さで側方に突
出した肋骨点間の水平距離

E: 左右第十肋骨の側方に突出した点間の水平距離

胸厚は田中の方法と同様 F, G, H, B', D' の 5 か所

F: 胸骨柄上点と頸点との最短距離

G: 胸骨柄上点から水平に背方に延長せしめて脊椎
棘状突起尖端部に至る距離

H: 胸骨柄下端正中線から水平に背方に延長せしめ
て, 脊椎棘状突起尖端部に至る距離

B': 胸骨中点から水平に背方に延長せしめて脊椎棘
状突起尖端部に至る距離

D': 胸骨体下端から背方に水平に延長せしめて脊椎
棘状突起尖端部に至る距離

胸围は I, II の 2 か所

I: 腕は自然に垂れさせ 尺帯を前方は胸骨中点上
を, 側方は腋窩直下を, 背面は肩胛下隅直下を走らせ
て測定す。

II: 尺帯を胸骨体下端の高さにて水平に走らせて測
定す。

$\angle SCD$; 胸骨柄上点を S とし, 之と同一水平面が脊
椎棘状突起と交る点を D とす。C は頸点にして S, C,
D の三点を結ぶと三角形が形成され, その一角であ
る $\angle SCD$ を三角法余弦則により算出す。 $\angle SCD$ は
胸廓上口の傾斜度を示す。

胸骨長; 胸骨柄上点から剣状突起基部に至る距離

骨盤傾斜角; 恥骨結合高・腰点高・外結合線の 3 つに
よつて骨盤傾斜角を見た。それには恥骨結合高と腰点
高の差をとりそれを水平線上に直角に立て, その上点

を基点として外結合線の距離を水平線上に投射し, 水
平線との間に出来た角度を三角法正弦則により算出す
腹围; 臍の位置に関らず最小の腹围。

腰围; 後は腰点から腸骨櫛に沿うて腸骨前上棘を通
る水平围

上腹角 I・II; 直立姿勢をとらしめ, パラピン紙を
上腹角に固定して静呼吸の下に剣状突起基部より両肋
骨弓を正確に辿り, 此の図により (I) 剣状突起基部
より両肋骨弓に切線を引き, 該二切線の成す角度を
分度器により測定する方法と, (II) 飯田の方法で此の
方法を立位で測定した。即, 季肋骨を見ると大体最も
上方の狭い角をなす二辺と, 下方の広い想像角をなす
二辺と, その中間を占める二辺とに別けることが出来
る。此の中間の二辺のなす角度を測定す。

胸廓横断面並びに横断面積 $B'' \cdot D''$; 被検者を直立
せしめ, 胸骨中点の高さ及剣状突起基部の高さに於け
る胸厚 B' 及 D' を夫々縦軸とする前後の二点から,
左右の半側胸彎曲に自由曲線定規を押しあて, 忠実に
胸廓の左右形をとり, 此を予め紙上に記した胸厚の両
点にあて定規の内縁に沿うて横断面を模写した。かく
して出来た 2 個の横断面積を B'' 及 D'' とし, B'' 及
 D'' は夫々プランニメーターに依つて左右別に実測した
面積を合せたものである。

尚, 計測器は山越製マルチン式計測器を使用した。

統計に用いた公式及記録

(i) 人員数 N

(ii) 算術平均 M

(iii) 標準偏差 σ

(iv) 変異係数 v

(v) M の平均誤差 m

(vi) 2 つの平均値差の有意性 Q

$$\frac{M_1 - M_2}{\sqrt{m_1^2 + m_2^2}} > 3 \cdots \cdots \text{有意}$$

$$\frac{M_1 - M_2}{\sqrt{m_1^2 + m_2^2}} < 3 \cdots \cdots \text{無意}$$

(vii) 2 つの平均値の相関関係

$$\frac{\sum f dx dy - n \omega x \omega y}{n \sigma_x \sigma_y} \text{ による}$$

成 績

I. 計測値並びに示数値

身長は 149.06 ± 0.48 cm である。日本婦人につい
ての最大値は東福寺例の 154.03 cm であるがこれは
玉川学園の生徒であり, 最小値は中山例の 145.99 cm
でこれは老人が多い。著者の平均値に最も近いのは馬

場例の大妻技芸女学校の生徒で 22 乃至 31 才についての 149.3 cm, 高楠例の 20 才から 40 才までの 148.9 cm, 本多例の 18 才から 49 才までの 148.8 cm の例などで, 阿部の例は 150.60 cm で日本人としては少し高い。男子の例として田中の信州人についての計測例と較べて見ると遙かに低く, その差は 11.25 ± 0.72 cm である。又本多の石川人とはその差 10.44 ± 0.71 cm で同様に低い。

表 2 計測値及び示数值

計 測 項 目	N	M	m	σ	V
身 長	143	149.06	0.48	5.70	3.82
頸 点 高	"	125.84	0.42	5.06	4.02
胸骨上縁高	"	120.58	0.39	4.72	3.91
比胸骨上縁高	"	80.58	0.05	0.60	0.74
肩 峰 高	"	120.58	0.42	5.02	4.16
比肩峰高	"	80.94	0.08	0.99	1.22
臍 高	"	85.96	0.35	4.20	4.89
腸骨前上棘高	"	80.44	0.34	4.12	5.12
腰 点 高	"	86.70	0.36	4.30	4.96
恥骨結合高	"	74.16	0.31	3.72	5.02
坐 高	142	81.61	0.28	3.38	4.14
比 坐 高	"	54.89	0.13	1.53	2.79
胴 長	143	46.04	0.18	2.19	4.76
比 胴 長	"	30.95	0.09	1.12	3.62
腹 長	"	12.03	0.16	1.90	15.79
肩 峰 幅	"	33.67	0.13	1.57	4.66
比肩峰幅	"	22.65	0.07	0.81	3.58
C-D	"	6.66	0.09	1.11	16.67
∠SCD	"	78.41	0.40	4.80	6.12
胸 骨 長	"	14.01	0.12	1.42	10.14
右胸廓長	"	26.55	0.15	1.64	6.19
比右胸廓長	"	17.65	0.07	0.84	4.76
左胸廓長	"	26.72	0.12	1.47	5.50
比左胸廓長	"	17.99	0.07	0.78	4.34
胸 幅 A	"	22.33	0.10	1.18	5.28
比胸幅 A	"	15.03	0.06	0.75	4.99
胸 幅 B	"	23.40	0.10	1.17	4.96
比胸幅 B	"	15.77	0.07	0.79	5.10
胸 幅 D	"	23.93	0.11	1.27	5.31
比胸幅 D	"	16.13	0.08	0.94	5.83
胸 幅 E	"	21.64	0.11	1.32	6.10
比胸幅 E	"	14.58	0.08	0.97	6.65
胸 厚 F	"	11.75	0.05	0.55	4.68
比胸厚 F	"	7.92	0.03	0.41	5.18
胸 厚 G	"	12.29	0.06	0.69	5.61
比胸厚 G	"	8.28	0.04	0.53	6.40
胸 厚 H	"	15.13	0.08	0.91	6.01
比胸厚 H	"	10.24	0.06	0.73	7.13
胸 厚 B'	"	16.02	0.09	1.06	6.62
比胸厚 B'	"	10.82	0.07	0.80	7.39
胸 厚 D'	"	17.29	0.11	0.11	7.29
比胸厚 D'	"	11.62	0.08	0.90	7.75
胸 围 I	"	77.64	0.32	3.88	5.00
比胸围 I	"	52.20	0.22	2.63	5.04
胸 围 II	"	77.86	0.39	4.66	5.99
比胸围 II	"	52.60	0.28	3.30	6.27
胸廓横断面 B	"	427.84	3.58	42.90	10.03
" B 右	"	215.35	1.83	21.95	10.19
" B 左	"	211.92	1.76	21.21	10.01
" D	"	451.26	4.32	51.80	11.48
" D 右	"	227.79	2.15	25.85	11.35
" D 左	"	223.61	2.18	26.21	11.72
胸骨長×100	"	52.98	0.44	5.32	10.04
胸廓長	"	52.98	0.44	5.32	10.04
胸長示数 {右	"	57.76	0.24	2.94	5.09
左	"	58.15	0.24	2.95	5.07
胸幅示数 {B ₁	"	50.84	0.25	3.00	5.90
D ₁	"	52.07	0.29	3.43	6.59
胸廓示数 {B ₂	"	68.52	0.38	4.54	6.63
D ₂	"	72.40	0.43	5.20	7.18
I 右	"	34.29	0.20	2.42	7.06
I 左	"	34.57	0.21	2.48	7.17
胸廓長×100 II 右	"	34.19	0.22	2.66	7.78
胸围 II 左	"	34.51	0.24	2.83	8.20
上 腹 角 {I	"	47.81	1.13	13.60	28.45
II	"	80.34	0.65	7.75	9.65
腹部横径	"	22.72	0.14	1.66	7.3
腹部矢状径	"	16.42	0.15	1.84	11.21
腹 围	"	65.54	0.47	5.66	8.64
比 腹 围	"	44.12	0.33	3.94	8.93
腰 围	"	75.54	0.46	5.48	7.25
比 腰 围	"	50.76	0.30	3.64	7.17
腸骨前上棘間径	"	23.03	0.13	1.50	6.51
比腸骨前上棘間径	"	15.45	0.09	1.04	6.73
腸骨後上棘間径	"	9.46	0.08	0.99	10.47
比腸骨後上棘間径	"	6.30	0.04	0.53	8.41
腸骨櫛間径	"	26.89	0.12	1.48	5.50
比腸骨櫛間径	"	18.08	0.08	0.90	4.98
外 結 合 線	"	20.51	0.09	1.10	5.36
比外結合線	"	13.80	0.54	0.65	4.71
外斜傾線 1	"	21.54	0.09	1.04	4.83
比外斜傾線 1	"	14.45	0.05	0.59	4.08
外斜傾線 2	"	21.51	0.09	1.07	4.97
側結合線右	"	15.61	0.08	0.85	5.45
比側結合線右	"	10.46	0.04	0.44	4.21
側結合線左	"	15.61	0.07	0.84	5.38
大転子間径	"	29.34	0.10	1.20	4.09
比大転子間径	"	19.70	0.05	0.65	3.30
骨盤傾斜度	"	38.75	0.67	8.05	20.77
櫛 棘 示 数	"	85.82	0.48	5.79	6.74
骨盤幅深示数	"	76.42	0.30	3.60	4.71
腰 横 示 数	"	91.56	0.33	3.96	4.33
胸腰围示数	"	103.26	0.45	5.50	5.33
腹腰围示数	"	86.80	0.37	4.40	5.07
大 腿 围	"	42.78	0.31	3.68	8.60
大 腿 围	"	31.26	0.18	2.19	7.01

脚囲示数	"	74.32	0.30	3.64	4.90
肩幅骨盤幅示数	"	79.84	0.37	4.42	5.54
肩腰横示数	"	87.21	0.30	3.56	4.08
肩幅胴長示数	"	73.24	0.30	3.62	4.94
肩胸囲示数	"	43.94	0.18	2.14	4.92
胸囲胴長示数	"	168.95	0.88	10.55	6.24
骨盤幅胴長示数	"	58.56	0.30	3.56	6.08
胸腹横示数	"	87.38	0.45	5.38	6.16
胸幅転子間示数	"	79.72	0.32	3.88	4.87

頸点高は 125.84 ± 0.42 cm である。この計測は他の女性例の報告には見られず、男性については田中例の 135.73 cm という計測値があり、その差は 9.89 ± 0.62 cm である。但、身長比は 11.25 cm である。

胸骨上縁高は 120.58 ± 0.39 cm その身長に対する比は 80.58 ± 0.05 であつて、馬場例の 119.8 cm、高楠例の 119.9 cm、本多例の 120.1 cm に一致し、阿部例の 120.91 cm より低い。身長比としては尼子例（大分地方人の 20 才）のみ見られ 80.46 で著者例と一致する。男性について田中例は 129.81 cm でこれとの差は 9.23 ± 0.59 であり、本多例では 128.9 cm でその差は 8.32 ± 0.61 cm である。

肩峰高は 120.58 ± 0.42 cm 身長に対する比は 80.94 ± 0.08 で、高楠例の 123.1 cm に較べると少々低い。阿部例も同様に大きく 123.22 cm でよく高楠例に類似して居るが、身長は阿部例の方が高い。従つて高楠例の肩峰高は注意を要する。本多例は 120.2 cm で著者例と一致する。身長比については尼子例のみ見られ 80.22 で僅かに小さい。

臍高は 85.96 ± 0.35 cm で、本多例は身長 148.8 cm であるがその臍高は 86.2 ± 0.303 cm で身長比の割合には臍高が高い。

腸骨前上棘高は 80.44 ± 0.34 cm である。馬場例の 80.4 cm と一致するが、高楠例は 81.5 cm、本多例は 81.9 cm で大きい。身長は著者例及馬場例よりも高楠例本多例の方が低いのであるから、この点は注意を要する。又阿部例は 79.73 cm で低く、同例の身長は著者例より高いのに恥骨結合高と共に腸骨前上棘高が低いことは注意を要する。

恥骨結合上縁高は 74.16 ± 0.31 cm であつて、馬場例は 73.1 cm、高楠例は 74.6 cm で大差なく、唯阿部例は 73.91 cm で身長比の割合には低い点に注意される。

坐高は 81.61 ± 0.28 cm である。馬場例は 83.7 cm で著者例よりも著しく大きく、高楠例は 81.18 cm、本多例は 80.7 cm で略々等しい。比坐高は 54.89 ± 0.13

表3 一般身体計

		小 山♀	阿 部
計 測 項 目		$M \pm m$	$M \pm m$
		cm	cm
身 長		149.06 ± 0.48	150.60 ± 0.34
胸 骨 上 縁 高		120.58 ± 0.39	120.91 ± 0.31
肩 峰 高		120.58 ± 0.42	123.22 ± 0.31
臍 高		85.96 ± 0.35	—
腸 骨 前 上 棘 高		80.44 ± 0.34	79.73 ± 0.25
恥 骨 結 合 高		74.16 ± 0.31	73.91 ± 0.22
坐 高		81.61 ± 0.28	—
比 坐 高		54.89 ± 0.13	—
胴 長		46.04 ± 0.18	47.32 ± 0.14
比 胴 長		30.95 ± 0.09	31.65 ± 0.08
肩 峰 幅		33.67 ± 0.13	30.00 ± 0.09
比 肩 峰 幅		22.65 ± 0.07	—
胸 骨 長		14.01 ± 0.12	16.64 ± 0.12
胸 廓 長(右)		26.55 ± 0.15	28.29 ± 0.12
胸 幅(B)		23.40 ± 0.10	24.63 ± 0.10
胸 厚(G)		12.29 ± 0.06	—
胸 厚(B')		16.02 ± 0.09	—
胸 囲(I)		77.64 ± 0.32	79.51 ± 0.37
比 胸 囲(I)		52.20 ± 0.22	52.82 ± 0.24
胸 廓 示 数(B ₂)		68.52 ± 0.38	72.80 ± 0.32
腹 囲		65.54 ± 0.45	70.44 ± 0.46
比 腹 囲		44.12 ± 0.33	—
腰 囲		75.54 ± 0.46	80.38 ± 0.43
腸 骨 前 上 棘 間 径		23.03 ± 0.13	—
腸 骨 櫛 間 径		26.89 ± 0.12	27.81 ± 0.10
比 腸 骨 櫛 間 径		18.08 ± 0.08	—
外 結 合 線		20.51 ± 0.09	—
外 斜 傾 線(1)		21.54 ± 0.09	—
大 転 子 間 径		29.34 ± 0.10	30.13 ± 0.09
大 腿 囲		42.78 ± 0.31	44.23 ± 0.31
下 腿 囲		31.26 ± 0.18	32.49 ± 0.16
骨 盤 傾 斜 度		$33.75^\circ \pm 0.68$	—
肩 幅 骨 盤 幅 示 数		79.84 ± 0.37	—
肩 腰 横 示 数		87.21 ± 0.30	99.79 ± 0.32
肩 幅 胴 長 示 数		73.24 ± 0.30	—
肩 胸 囲 示 数		43.49 ± 0.18	37.88 ± 0.15
胸 囲 胴 長 示 数		168.95 ± 0.88	—
胸 腹 横 示 数		87.38 ± 0.45	88.68 ± 0.31

で馬場例 56.7 は矢張り大きい、高楠例 53.30 は略々一致する。男性について見ると、田中例 86.80 cm、本多例 86.2 cm 等約 5 cm の差がある。その比坐高は田中例 54.37 で幾分著者の女子例より小さい傾きがあるが著差はない。東福寺は男女間に性差を認めて居ない。

胴長は 46.04 ± 0.18 cm その身長比は 30.95 ± 0.09 である。高楠例は 40.57 cm で極めて小さいがこれは例外であつて、殆どの報告は $46, 47, 48$ cm の範囲に

表4 一般身体計測について（男性例との比較）

計測項目	小山♀	田中♂				本多♂		
	$M \pm m$	$M \pm m$	$D \pm \text{diff}$	Q		$M \pm m$	$D \pm \text{diff}$	Q
身長	149.06±0.48	160.31±0.53	-11.25±0.72	-15.63		159.5±0.529	-10.44±0.71	-14.70
頸点高	125.84±0.42	135.73±0.45	-9.89±0.62	-15.95		—	—	—
胸骨上縁高	120.58±0.39	129.81±0.44	-9.23±0.59	-15.64		128.9±0.466	-8.32±0.61	-13.64
肩峰高	120.58±0.42	—	—	—		129.3±0.468	-8.72±0.63	-13.83
臍高	85.96±0.35	—	—	—		92.6±0.393	-6.64±0.52	-12.76
腸骨前上棘高	80.44±0.34	—	—	—		86.4±0.364	-5.96±0.50	-11.92
恥骨結合高	74.16±0.31	79.21±0.32	-5.05±0.45	-11.22		79.0±0.330	-4.84±0.45	-10.98
坐高	81.61±0.28	86.80±0.28	-5.19±0.40	-12.73		86.2±0.299	-4.59±0.41	-11.20
比坐高	54.89±0.13	54.37±0.10	0.52±0.16	3.25		—	—	—
胴長	46.04±0.18	50.56±0.23	-4.52±0.29	-15.59		50.0±0.220	-3.96±0.28	-14.14
比胴長	30.95±0.09	31.65±0.11	-0.70±0.14	-5.0		31.3±0.095	-0.35±0.13	-2.69
肩峰幅	33.67±0.13	36.73±0.14	-3.06±0.19	-15.3		37.5±0.140	-3.83±0.19	-20.16
比肩峰幅	22.65±0.07	23.01±0.09	-0.36±0.11	-3.27		—	—	—
C - D	6.66±0.09	7.56±0.10	-0.9 ±0.14	-6.43		—	—	—
∠SCD	78.41°±0.40	77.18±0.53	1.23±0.66	1.86		—	—	—
胸骨長	14.01±0.12	16.55±0.10	-2.54±0.16	-15.88		—	—	—
右胸廓長	26.55±0.15	29.92±0.17	-3.37±0.23	-24.65		—	—	—
比右胸廓長	17.65±0.07	18.87±0.08	-1.64±0.11	-14.91		—	—	—
左胸廓長	26.72±0.12	30.40±0.17	-3.68±0.21	-17.52		—	—	—
比左胸廓長	17.99±0.07	19.29±0.08	-0.88±0.11	-8.0		—	—	—
胸幅A	22.33±0.10	24.61±0.12	-2.28±0.16	-14.25		—	—	—
比A	15.03±0.06	15.57±0.07	-0.54±0.09	-6.0		—	—	—
胸幅B	23.40±0.10	25.51±0.11	-2.11±0.15	-14.07		26.3±0.135	-2.90±0.17	-1.71
比B	15.77±0.07	16.12±0.07	-0.35±0.10	-3.50		—	—	—
胸幅D	23.93±0.11	26.54±0.13	-2.61±0.17	-15.35		—	—	—
比D	16.13±0.08	16.78±0.08	-0.65±0.10	-6.50		—	—	—
胸幅E	21.64±0.11	23.61±0.12	-1.97±0.16	-12.31		—	—	—
比E	14.58±0.08	14.96±0.05	-0.38±0.09	-0.42		—	—	—
胸厚F	11.75±0.05	12.04±0.07	-0.29±0.09	0.32		—	—	—
胸厚G	12.29±0.06	12.59±0.09	-0.30±0.18	-1.67		13.0±0.090	-0.71±0.11	-6.45
胸厚H	15.13±0.08	16.27±0.10	-1.14±0.13	-8.77		—	—	—
胸厚B'	16.02±0.09	18.13±0.11	-2.11±0.14	-15.07		18.0±0.115	-1.98±0.15	-13.2
胸厚D'	17.29±0.11	18.62±0.12	-1.33±0.16	-8.31		—	—	—
胸围I	77.64±0.32	86.28±0.36	-8.64±0.48	-18.0		87.1±0.419	-9.46±0.53	-17.35
比I	52.20±0.22	54.31±0.23	-2.11±0.32	-6.59		54.6±0.259	-2.40±0.34	-7.06
胸围II	77.86±0.39	82.46±0.35	-4.60±0.52	-8.85		—	—	—
比II	52.60±0.28	52.01±0.23	0.59±0.36	1.64		—	—	—
胸廓横断面B'	427.84±3.58	521.86±4.37	-94.02±5.65	-16.64		—	—	—
" B' 右	215.35±1.83	264.96±2.26	-49.61±3.07	-16.16		—	—	—
" B' 左	211.92±1.76	257.68±2.11	-45.76±2.75	-16.64		—	—	—
" D'	451.26±4.32	511.07±4.52	-59.81±6.25	-9.57		—	—	—
" D' 右	227.79±2.15	260.57±2.28	-32.78±3.13	-10.47		—	—	—
" D' 左	223.61±2.18	250.68±2.21	-27.07±3.10	-8.73		—	—	—
胸長示数右	57.76±0.24	59.89±0.29	-2.13±0.38	-5.61		—	—	—
" 左	58.15±0.24	60.79±0.30	-2.64±0.38	-6.95		—	—	—
胸幅示数B ₁	50.84±0.25	51.12±0.26	-0.28±0.42	-0.78		—	—	—
" D ₁	52.07±0.29	53.30±0.31	-1.23±0.42	-2.93		—	—	—
胸廓示数B ₂	68.52±0.38	71.49±0.45	-2.97±0.59	-5.03		—	—	—
" D ₂	72.40±0.43	70.56±0.43	1.84±0.61	3.02		—	—	—

表4 一般身体計測について（男性例との比較）

計測項目	小山♀	田中♂				本多♂		
	$M \pm m$	$M \pm m$	$D \pm \text{diff}$	Q		$M \pm m$	$D \pm \text{diff}$	Q
身長	149.06±0.48	160.31±0.53	-11.25±0.72	-15.63		159.5±0.529	-10.44±0.71	-14.70
頸点高	125.84±0.42	135.73±0.45	-9.89±0.62	-15.95		—	—	—
胸骨上縁高	120.58±0.39	129.81±0.44	-9.23±0.59	-15.64		128.9±0.466	-8.32±0.61	-13.64
肩峰高	120.58±0.42	—	—	—		129.3±0.468	-8.72±0.63	-13.83
臍高	85.96±0.35	—	—	—		92.6±0.393	-6.64±0.52	-12.76
腸骨前上棘高	80.44±0.34	—	—	—		86.4±0.364	-5.96±0.50	-11.92
恥骨結合高	74.16±0.31	79.21±0.32	-5.05±0.45	-11.22		79.0±0.330	-4.84±0.45	-10.98
坐高	81.61±0.28	86.80±0.28	-5.19±0.40	-12.73		86.2±0.299	-4.59±0.41	-11.20
比坐高	54.89±0.13	54.37±0.10	0.52±0.16	3.25		—	—	—
胴長	46.04±0.18	50.56±0.23	-4.52±0.29	-15.59		50.0±0.220	-3.96±0.28	-14.14
比胴長	30.95±0.09	31.65±0.11	-0.70±0.14	-5.0		31.3±0.095	-0.35±0.13	-2.69
肩峰幅	33.67±0.13	36.73±0.14	-3.06±0.19	-15.3		37.5±0.140	-3.83±0.19	-20.16
比肩峰幅	22.65±0.07	23.01±0.09	-0.36±0.11	-3.27		—	—	—
C-D	6.66±0.09	7.56±0.10	-0.9±0.14	-6.43		—	—	—
∠SCD	78.41°±0.40	77.18±0.53	1.23±0.66	1.86		—	—	—
胸骨長	14.01±0.12	16.55±0.10	-2.54±0.16	-15.88		—	—	—
右胸廓長	26.55±0.15	29.92±0.17	-3.37±0.23	-24.65		—	—	—
比右胸廓長	17.65±0.07	18.87±0.08	-1.64±0.11	-14.91		—	—	—
左胸廓長	26.72±0.12	30.40±0.17	-3.68±0.21	-17.52		—	—	—
比左胸廓長	17.99±0.07	19.29±0.08	-0.88±0.11	-8.0		—	—	—
胸幅A	22.33±0.10	24.61±0.12	-2.28±0.16	-14.25		—	—	—
比A	15.03±0.06	15.57±0.07	-0.54±0.09	-6.0		—	—	—
胸幅B	23.40±0.10	25.51±0.11	-2.11±0.15	-14.07		26.3±0.135	-2.90±0.17	-1.71
比B	15.77±0.07	16.12±0.07	-0.35±0.10	-3.50		—	—	—
胸幅D	23.93±0.11	26.54±0.13	-2.61±0.17	-15.35		—	—	—
比D	16.13±0.08	16.78±0.08	-0.65±0.10	-6.50		—	—	—
胸幅E	21.64±0.11	23.61±0.12	-1.97±0.16	-12.31		—	—	—
比E	14.58±0.08	14.96±0.05	-0.38±0.09	-0.42		—	—	—
胸厚F	11.75±0.05	12.04±0.07	-0.29±0.09	0.32		—	—	—
胸厚G	12.29±0.06	12.59±0.09	-0.30±0.18	-1.67		13.0±0.090	-0.71±0.11	-6.45
胸厚H	15.13±0.08	16.27±0.10	-1.14±0.13	-8.77		—	—	—
胸厚B'	16.02±0.09	18.13±0.11	-2.11±0.14	-15.07		18.0±0.115	-1.98±0.15	-13.2
胸厚D'	17.29±0.11	18.62±0.12	-1.33±0.16	-8.31		—	—	—
胸围I	77.64±0.32	86.28±0.36	-8.64±0.48	-18.0		87.1±0.419	-9.46±0.53	-17.35
比I	52.20±0.22	54.31±0.23	-2.11±0.32	-6.59		54.6±0.259	-2.40±0.34	-7.06
胸围II	77.86±0.39	82.46±0.35	-4.60±0.52	-8.85		—	—	—
比II	52.60±0.28	52.01±0.23	0.59±0.36	1.64		—	—	—
胸廓横断面B'	427.84±3.58	521.86±4.37	-94.02±5.65	-16.64		—	—	—
"B"右	215.35±1.83	264.96±2.26	-49.61±3.07	-16.16		—	—	—
"B"左	211.92±1.76	257.68±2.11	-45.76±2.75	-16.64		—	—	—
"D"	451.26±4.32	511.07±4.52	-59.81±6.25	-9.57		—	—	—
"D"右	227.79±2.15	260.57±2.28	-32.78±3.13	-10.47		—	—	—
"D"左	223.61±2.18	250.68±2.21	-27.07±3.10	-8.73		—	—	—
胸長示数右	57.76±0.24	59.89±0.29	-2.13±0.38	-5.61		—	—	—
"左	58.15±0.24	60.79±0.30	-2.64±0.38	-6.95		—	—	—
胸幅示数B ₁	50.84±0.25	51.12±0.26	-0.28±0.42	-0.78		—	—	—
"D ₁	52.07±0.29	53.30±0.31	-1.23±0.42	-2.93		—	—	—
胸廓示数B ₂	68.52±0.38	71.49±0.45	-2.97±0.59	-5.03		—	—	—
"D ₂	72.40±0.43	70.56±0.43	1.84±0.61	3.02		—	—	—

胸 長	I 右	34.29±0.20	35.19±0.22	-0.90±0.30	-3.0	—	—	—
胸 囲	I 左	34.57±0.21	35.69±0.21	-1.12±0.30	-3.73	—	—	—
	II 右	34.19±0.22	35.99±0.23	-1.80±0.33	-5.45	—	—	—
	II 左	34.51±0.24	36.44±0.22	-1.93±0.33	-5.85	—	—	—
上 腹 角	I	47.81±1.13	103.16±1.06	—	—	—	—	—
	II	80.34±0.65	85.69±0.88	-5.35±1.09	-4.91	—	—	—
腰 囲		75.54±0.46	—	—	—	72.8±0.441	2.74±0.64	4.28
腸 骨 間 径		26.89±0.12	26.83±0.14	0.06±0.18	0.33	26.3±0.127	0.59±0.18	3.28
比		18.08±0.08	16.94±0.08	1.14±0.11	10.36	—	—	—
大 転 子 間 径		29.34±0.10	—	—	—	29.2±0.134	0.12±0.16	0.75
大 腿 囲		42.78±0.31	—	—	—	46.8±0.236	-4.02±0.39	-10.31
下 腿 囲		31.26±0.18	—	—	—	33.6±0.188	-2.34±0.26	-9.00
肩 幅 骨 盤 幅 示 数		79.84±0.37	—	—	—	70.1±0.348	9.74±0.51	19.14
肩 幅 胸 長 示 数		73.24±0.30	—	—	—	75.2±0.352	-1.96±0.46	-4.25
胸 囲 胸 長 示 数		168.75±0.88	—	—	—	172.7±0.940	-3.75±1.28	-2.93
骨 盤 幅 胸 長 示 度		58.56±0.30	53.79±0.34	4.77±0.45	10.6	—	—	—

で少々小さい。

胸骨長は 14.01 ± 0.12 cm である。阿部例は 16.64 cm で著しく大きく、男性についての田中例 16.55 cm と変らない。荒木例（徳島県の紡績女工 16~24 才）は 15.3 cm で著者例の場合より大きく、阪本例は反対に 13.35 cm で小さい。

胸廓長は右 26.55 ± 0.15 cm その身長比 17.65 ± 0.07 左 26.72 ± 0.12 cm その身長比 17.99 ± 0.07 であつて、僅かに左が大きい。阿部例は 28.29 cm (右) で著しく大きい。男性について見ると田中例は右 29.92 cm その身長比 18.87 左 30.40 cm その身長比 19.29 で共に著しく著者例より大きく、同様に右<左である。

胸幅は A 22.33 ± 0.10 cm, B 23.40 ± 0.10 cm, D 23.93 ± 0.11 cm, E 21.64 ± 0.11 cm である。報告を見ると大部分が著者の B に相当し、阿部例 24.63 cm, 馬場例 26.1 cm, 本多例 24.8 cm で何れも大きい。男性について見ると田中例は A 24.61 cm, B 25.51 cm, D 26.54 cm, E 23.61 cm で著しく大きく、 $D > B > A > E$ の関係は共に等しい。比胸幅は著者例では A 15.03 ± 0.06 , B 15.77 ± 0.07 , D 16.13 ± 0.08 , E 14.58 ± 0.08 で田中例では A 15.57 , B 16.12 , D 16.78 , E 14.96 であるから ABD は明らかに男性が大きい。E では殆んど差がない。

胸厚は F 11.75 ± 0.05 cm, その身長比 7.92 ± 0.03 G 12.29 ± 0.06 cm その身長比 8.28 ± 0.04 , H 15.13 ± 0.08 cm その身長比 10.24 ± 0.06 , B' 16.02 ± 0.09 cm その身長比 10.82 ± 0.07 , D' 17.29 ± 0.11 cm その身長比 11.62 ± 0.08 である。報告は大部分著者の B に相当し、馬場例は 16.9 cm, 本多例は 16.7 cm で共に大きい。本多例に著者の G に相当する測定があり 12.0 cm で著者例より僅かに小さい。男性について見ると

田中例は F 12.04 cm, G 12.59 cm, H 16.27 cm, B, 18.13 cm, D' 18.62 cm で, F, G は大差ないが H, B と下方になる程差が大きくなり D' で又差が少し小さくなつて居る。但, $F < G < H < B' < D'$ と胸廓の上より下に移るに従い順次厚径を増して居る事は男女同様である。

胸囲は I 77.64 ± 0.32 cm その身長比 52.20 , II 77.86 ± 0.39 cm その身長比 52.60 ± 0.28 である。既出報告例は著者の I に相当するものが多く、阿部例は 79.51 cm その身長比 52.82 , 馬場例は 79.6 cm その身長比 56.4 で共に大きい。本多例は 77.6 cm その身長比 52.0 で略々一致し、高橋例は 75.7 cm で小さい。男性についての田中例は胸囲 I 86.28 cm, II 82.46 cm で、何れも大きい上 II より I の方が大きい、その身長比は I 54.31 , II 52.01 で I は著者例より大きい。II は小さい。

胸廓横断面積は B' 427.84 ± 3.58 cm² (B' 右 215.35 cm², B' 左 211.92 ± 1.76 cm²), D' 451.26 ± 4.32 cm² (D' 右 227.79 ± 2.15 cm², D' 左 223.61 ± 2.18 cm²) である。男性についての田中例と比較すると、各面積及横断面に於ける各径は何れも著しく男性が大きい。B' と D' とを較べると $B' < D'$ で、男性は $B' > D'$ で逆である。左右差を見ると B' も D' も右が大きい、これは男女共に一致して居る。

胸骨長/胸廓長 $\times 100$ は 52.98 ± 0.44 であつて、荒木例 58.7 より著しく小さいが、これは荒木例の胸廓長は 26.1 cm で著者例と大差ないのに不拘、胸骨長は著者例の 14.01 cm に対して 15.3 cm で著しく大きい為である。

胸長示数は右 57.76 ± 0.24 , 左 58.15 ± 0.24 である。男性について見ると田中例は右 59.89 , 左 60.79 で共

図1 胸廓横断面 B*

図2 胸廓横断面 D*

表5 胸廓横断面の各径について

		B				D			
		n 小山 143 田中 140							
		小 山 ♀	田 中 ♂	$D \pm \text{mdiff}$ $M_1 - M_2$	$\frac{D}{\text{mdiff}}$	小 山 ♀ M_2	田 中 ♂ M_1	$D \pm \text{mdiff}$ $M_1 - M_2$	$\frac{D}{\text{mdiff}}$
前	右切点から横径迄	—	—	—	—	—	—	—	—
	1/24の点の前後径	5.98±0.06	7.80±0.07	1.82±0.09	20.2	6.66±0.07	7.66±0.06	1.00±0.09	11.1
	1/12	8.46±0.07	10.86±0.09	2.40±0.11	21.82	9.47±0.10	10.56±0.08	1.09±0.13	8.39
	1/6	11.77±0.08	14.56±0.10	2.79±0.14	19.93	13.02±0.10	14.23±0.10	1.21±0.14	8.64
	1/3	15.39±0.09	18.21±0.11	2.83±0.14	20.21	16.79±0.10	18.07±0.11	1.28±0.15	8.53
	2/3	16.98±0.09	19.45±0.10	2.47±0.14	17.64	18.37±0.10	19.82±0.11	1.45±0.15	9.67
	左 2/3	16.94±0.09	19.31±0.10	2.37±0.14	16.93	18.35±0.10	19.56±0.11	1.21±0.15	8.07
	1/3	15.20±0.09	18.05±0.11	2.85±0.14	20.39	16.60±0.11	17.72±0.12	1.12±0.16	7.0
	1/6	11.64±0.08	14.56±0.12	2.92±0.15	19.47	12.86±0.10	14.01±0.11	1.15±0.15	7.67
	1/12	7.96±0.06	11.08±0.12	3.12±0.13	24.0	9.37±0.10	10.54±0.09	1.17±0.16	7.31
	1/24	5.92±0.05	8.12±0.10	2.2±0.11	20.0	6.58±0.08	7.71±0.07	1.13±0.11	10.27
	切点から横径迄	—	—	—	—	—	—	—	—
後	右切点から横径迄	1.03±0.08	2.28±0.09	0.98±0.12	8.17	0.87±0.08	2.01±0.08	1.14±0.11	10.36
	1/24の点の後径	4.28±0.08	5.80±0.08	1.52±0.11	13.82	4.02±0.08	5.55±0.07	1.53±0.11	13.91
	1/12	5.46±0.07	7.06±0.07	1.60±0.10	16.0	5.34±0.07	6.78±0.07	1.44±0.10	14.4
	1/6	6.90±0.06	8.59±0.06	1.69±0.08	21.13	6.94±0.06	8.31±0.07	1.37±0.09	15.2
	1/3	8.44±0.06	10.01±0.06	1.57±0.08	19.63	8.60±0.05	9.86±0.06	1.26±0.07	18.0
	2/3	8.82±0.05	10.18±0.05	1.36±0.07	19.43	9.20±0.03	10.28±0.06	1.08±0.07	15.43
	左 2/3	8.65±0.05	10.01±0.05	1.36±0.07	25.43	9.00±0.05	10.10±0.06	1.10±0.07	15.71
	1/3	8.10±0.05	9.88±0.06	1.78±0.07	25.43	8.17±0.05	9.59±0.06	1.42±0.04	20.29
	1/6	6.49±0.06	8.45±0.07	1.96±0.09	21.78	6.34±0.06	8.04±0.07	1.70±0.09	18.81
	1/12	4.95±0.05	6.99±0.07	2.04±0.08	25.5	4.71±0.07	6.49±0.06	1.78±0.09	19.78
	1/24	3.76±0.07	5.74±0.08	1.98±0.11	18.0	3.40±0.07	5.25±0.07	1.85±0.10	18.5
	切点から横径迄	0.79±0.06	2.14±0.09	1.35±0.11	12.27	0.08±0.08	1.64±0.06	1.56±0.10	15.6
左 右	右 径	14.73±0.07	15.79±0.08	1.06±0.11	9.64	14.35±0.07	15.42±0.07	1.07±0.10	10.7
	左 径	14.55±0.07	15.39±0.07	0.84±0.10	8.4	14.11±0.08	15.08±0.07	0.97±0.10	8.82
	左 右 径	29.23±0.13	31.18	—	—	28.37±0.28	30.50	—	—

に大きい。比胸長と同様に男性の胸廓長が大きいことを示して居る。

胸幅示数は B, 50.84±0.25, D, 52.07±0.29 である。女性についての報告は中山例 (40才代) のみが見られ福岡人 53.68, 宮崎人 54.54 で共に大きい。男性について見ると田中例は B, 51.12, D, 53.30 で共に大きいが大差ではない。

胸廓示数は B, 68.52±0.38, D, 72.40±0.43 である。阿部例は 72.80 で大きく、馬場例は 64.8 で著しく小さい。男性について見ると田中例は B, 71.49, D, 70.56 で B₂ は男性が大きく、D₂ は女性が多い上男性では B₂>D₂ で女性と逆であつて、女性はBの高さからDの高さに移るに従い胸廓が円味を増し、男性では扁平となつて居る事を示して居る。

表6 骨盤について女性例との比較

	小山 女	五反田 女			益野 女			奥脇 女			鈴木 女		
計測項目	$M \pm m$	$M \pm m$	$D \pm m$ diff	Q	$M \pm m$	$D \pm m$ diff	Q	$M \pm m$	$D \pm m$ diff	Q	$M \pm m$	$D \pm m$ diff	Q
身長	149.06 $\pm$ 0.48 ^{cm}	148.67 $\pm$ 0.65 ^{cm}	0.39 $\pm$ 0.81	0.48	149.13 $\pm$ 0.46 ^{cm}	-0.07 $\pm$ 0.67	-0.10	148.20 $\pm$ 0.81 ^{cm}	0.86 $\pm$ 0.94	0.92	149.8 $\pm$ 0.29 ^{cm}	-0.74 $\pm$ 0.56	1.32
腸骨前上棘間径	23.03 $\pm$ 0.13 ^{mm}	240.33 $\pm$ 2.01 ^{mm}	-1.00 $\pm$ 0.24	-4.17	238.64 $\pm$ 1.27 ^{mm}	-0.83 $\pm$ 0.18	-4.61	242.74 $\pm$ 2.38 ^{mm}	-1.24 $\pm$ 0.27	-4.59	224.83 $\pm$ 0.88 ^{mm}	0.55 $\pm$ 0.15	3.61
比 "	15.45 $\pm$ 0.09	16.16 $\pm$ 0.12	-0.71 $\pm$ 0.15	-4.73	16.01 $\pm$ 0.08	-0.56 $\pm$ 0.12	-4.67	16.35 $\pm$ 0.16	-0.90 $\pm$ 0.18	5.0	—	—	—
腸骨後上棘間径	9.46 $\pm$ 0.08	82.00 $\pm$ 0.81	1.26 $\pm$ 0.11	11.45	80.79 $\pm$ 0.69	1.38 $\pm$ 0.11	11.55	—	—	—	95.56 $\pm$ 0.51	-0.1 $\pm$ 0.09	-1.11
比 "	6.30 $\pm$ 0.04	5.52 $\pm$ 0.06	0.78 $\pm$ 0.07	11.14	5.44 $\pm$ 0.04	0.86 $\pm$ 0.05	17.2	—	—	—	—	—	—
腸骨櫛間径	26.89 $\pm$ 0.12	275.59 $\pm$ 1.74	-0.67 $\pm$ 0.21	-3.34	223.93 $\pm$ 1.16	-0.50 $\pm$ 0.17	-2.93	270.89 $\pm$ 2.19	-0.2 $\pm$ 0.25	-0.8	267.69 $\pm$ 0.68	0.12 $\pm$ 0.14	0.86
比 "	18.08 $\pm$ 0.08	18.51 $\pm$ 0.10	-0.43 $\pm$ 0.13	-3.31	18.36 $\pm$ 0.07	-0.28 $\pm$ 0.11	-2.55	18.32 $\pm$ 0.17	-0.24 $\pm$ 0.19	-1.26	—	—	—
外結合線	20.51 $\pm$ 0.09	202.07 $\pm$ 1.33	0.30 $\pm$ 0.16	1.88	202.17 $\pm$ 0.83	0.29 $\pm$ 0.12	2.42	195.57 $\pm$ 1.30	0.95 $\pm$ 0.16	5.94	190.00 $\pm$ 0.44	1.51 $\pm$ 0.10	15.10
比 "	13.80 $\pm$ 0.54	13.57 $\pm$ 0.07	0.23 $\pm$ 0.54	0.43	13.99 $\pm$ 0.05	0.21 $\pm$ 0.54	0.88	13.19 $\pm$ 0.10	0.61 $\pm$ 0.55	1.11	—	—	—
外斜傾線	21.54 $\pm$ 0.09	221.16 $\pm$ 1.32	-0.58 $\pm$ 0.16	-3.63	220.18 $\pm$ 0.82	-0.48 $\pm$ 0.12	-4.0	—	—	—	213.15 $\pm$ 0.48	0.22 $\pm$ 0.10	2.20
比 "	14.45 $\pm$ 0.05	14.90 $\pm$ 0.07	-0.45 $\pm$ 0.09	-5.00	14.78 $\pm$ 0.05	-0.33 $\pm$ 0.07	-4.71	—	—	—	—	—	—
側結合線	15.61 $\pm$ 0.08	160.39 $\pm$ 0.93	-0.43 $\pm$ 0.12	-3.58	163.07 $\pm$ 0.65	-0.7 $\pm$ 0.11	-6.36	155.61 $\pm$ 1.10	0.05 $\pm$ 0.14	0.36	154.44 $\pm$ 0.41	0.17 $\pm$ 0.09	1.89
比 "	10.46 $\pm$ 0.04	10.81 $\pm$ 0.05	-0.35 $\pm$ 0.06	-5.83	10.99 $\pm$ 0.04	-0.53 $\pm$ 0.05	-10.6	10.51 $\pm$ 0.06	-0.05 $\pm$ 0.07	-0.71	—	—	—
大転子間径	29.34 $\pm$ 0.10	—	—	—	—	—	—	285.9 $\pm$ 1.84	0.75 $\pm$ 0.21	3.57	286.51 $\pm$ 0.14	0.69 $\pm$ 0.10	6.90
比 "	19.70 $\pm$ 0.05	—	—	—	—	—	—	19.27 $\pm$ 0.12	0.43 $\pm$ 0.13	3.31	—	—	—
櫛棘示数	85.82 $\pm$ 0.48	87.17 $\pm$ 0.35	-1.35 $\pm$ 0.59	-2.29	87.19 $\pm$ 0.28	-1.37 $\pm$ 0.56	-2.45	89.60 $\pm$ 0.52	-3.78 $\pm$ 0.71	-5.32	—	—	—
骨盤幅深示数	76.42 $\pm$ 0.30	73.42 $\pm$ 0.48	3.00 $\pm$ 0.57	5.26	73.97 $\pm$ 0.32	2.45 $\pm$ 0.44	5.56	72.13 $\pm$ 0.66	4.29 $\pm$ 0.73	5.88	—	—	—

表7 骨盤について男性例との比較

	小山 女	五反田 男			益野 男			奥脇 男		
計測項目	$M \pm m$	$M \pm m$	$D \pm m$ diff	Q	$M \pm m$	$D \pm m$ diff	Q	$M \pm m$	$D \pm m$ diff	Q
身長	149.06 $\pm$ 0.48 ^{cm}	160.40 $\pm$ 0.59 ^{cm}	11.34 $\pm$ 0.76 ^{cm}	14.92	160.16 $\pm$ 0.48 ^{cm}	-11.1 $\pm$ 0.68	-16.32	159.93 $\pm$ 0.48 ^{cm}	-10.87 $\pm$ 0.68	-15.99
腸骨前上棘間径	23.03 $\pm$ 0.13 ^{mm}	237.38 $\pm$ 1.51 ^{mm}	-0.71 $\pm$ 0.20 ^{mm}	-3.55	238.24 $\pm$ 1.20 ^{mm}	-0.79 $\pm$ 0.18	-4.39	231.54 $\pm$ 1.40 ^{mm}	-0.12 $\pm$ 0.19	-0.63
比 "	15.45 $\pm$ 0.09	14.80 $\pm$ 0.09	0.65 $\pm$ 0.13	5.00	14.93 $\pm$ 0.07	0.52 $\pm$ 0.11	4.73	14.47 $\pm$ 0.08	0.98 $\pm$ 0.12	8.17
腸骨後上棘間径	9.46 $\pm$ 0.08	81.58 $\pm$ 0.79	1.3 $\pm$ 0.11	11.82	79.80 $\pm$ 0.80	1.48 $\pm$ 0.11	13.45	—	—	—
比 "	6.30 $\pm$ 0.04	5.13 $\pm$ 0.05	1.17 $\pm$ 0.06	19.50	5.00 $\pm$ 0.05	1.30 $\pm$ 0.06	21.67	—	—	—
腸骨櫛間径	26.89 $\pm$ 0.12	273.61 $\pm$ 1.49	-0.47 $\pm$ 0.19	-2.48	273.87 $\pm$ 1.17	-0.50 $\pm$ 0.17	-2.94	264.46 $\pm$ 1.03	0.25 $\pm$ 0.16	1.56
比 "	18.08 $\pm$ 0.08	17.04 $\pm$ 0.08	1.04 $\pm$ 0.11	9.46	17.14 $\pm$ 0.06	0.94 $\pm$ 0.11	8.55	26.55 $\pm$ 0.06	2.53 $\pm$ 0.10	25.3
外結合線	20.51 $\pm$ 0.09	192.03 $\pm$ 0.93	1.31 $\pm$ 0.13	10.08	199.35 $\pm$ 0.99	0.57 $\pm$ 0.13	4.88	188.72 $\pm$ 0.63	1.64 $\pm$ 0.09	18.22
比 "	13.80 $\pm$ 0.54	11.98 $\pm$ 0.05	1.82 $\pm$ 0.55	3.31	12.43 $\pm$ 0.05	1.37 $\pm$ 0.45	2.54	11.79 $\pm$ 0.04	2.01 $\pm$ 0.54	3.72
外斜傾線	21.54 $\pm$ 0.09	220.53 $\pm$ 1.07	-0.51 $\pm$ 0.14	-3.64	218.51 $\pm$ 0.87	-0.31 $\pm$ 0.12	-2.58	—	—	—
比 "	14.45 $\pm$ 0.05	13.76 $\pm$ 0.05	0.69 $\pm$ 0.07	9.86	13.69 $\pm$ 0.05	0.76 $\pm$ 0.07	10.86	—	—	—
側結合線	15.61 $\pm$ 0.08	163.03 $\pm$ 0.86	-0.69 $\pm$ 0.12	-5.75	164.72 $\pm$ 0.69	-0.86 $\pm$ 0.11	-7.82	160.60 $\pm$ 0.68	-0.45 $\pm$ 0.11	-4.09
比 "	10.46 $\pm$ 0.04	10.19 $\pm$ 0.04	0.27 $\pm$ 0.06	4.50	10.34 $\pm$ 0.03	0.12 $\pm$ 0.05	2.40	10.02 $\pm$ 0.03	0.44 $\pm$ 0.05	8.8
大転子間径	29.34 $\pm$ 0.10	—	—	—	—	—	—	290.13 $\pm$ 1.15	0.33 $\pm$ 0.16	2.06
比 "	19.70 $\pm$ 0.05	—	—	—	—	—	—	18.16 $\pm$ 0.05	1.54 $\pm$ 0.07	22.0
櫛棘示数	85.82 $\pm$ 0.48	86.74 $\pm$ 0.33	-0.92 $\pm$ 0.58	-1.59	87.06 $\pm$ 0.33	-1.24 $\pm$ 0.58	-2.14	87.63 $\pm$ 0.37	1.81 $\pm$ 0.67	2.70
骨盤幅深示数	76.42 $\pm$ 0.30	70.21 $\pm$ 0.36	6.21 $\pm$ 0.47	13.21	72.68 $\pm$ 0.29	3.74 $\pm$ 0.42	8.90	71.21 $\pm$ 0.27	5.21 $\pm$ 0.40	13.02

胸廓長/胸囲×100 はⅠ右 34.29±0.20, Ⅰ左34.57±0.21, Ⅱ右 34.19±0.22, Ⅱ左 34.51±0.24 である。男性について見ると田中例はⅠ右35.19, Ⅰ左35.69, Ⅱ右 35.99, Ⅱ左 36.44 で何れも大きい。即, 女性では胸囲に対して胸廓長が短いことを示して居るが, 胸囲及胸廓長共に男性が著しく大きい点から見ると, その割合は男女間に大差はない。

上腹角はⅠ47.81°±1.13, Ⅱ80.34°±0.65 である。男性についての田中例のⅠは計測法を異にして居るので比較出来ないが, Ⅱは男性 85.69° で少し大きくなっている。

腹部横径は 22.72±0.14 cm, その矢状径は 16.42±0.15 cm である。尼子例では夫々 21.62 cm, 16.91 cm で前者は稍々小さく, 後者は僅かに大きい。

腹囲は 65.54±0.47 cm その身長比 44.12±0.33 で, 阿部例 70.44 cm は大きく, 馬場例 67.1 cm その身長比 44.9, 高橋例 66.5 cm 等は僅かに大きいが有意差とは言えない。男性について見ると中山例の宮崎人 72.91 cm, 土肥例(受刑者) 69.0 cm は共に著しく大きい, 身長比では土肥例 43.2 で小さい。

腰囲は 75.54±0.46 cm その身長比は 50.76±0.30 である。計測方法に差がある為か報告例には著差があり, 阿部例は 80.38 cm で著しく大きく, 本多例日置例は最小腰囲として前者 67.2 cm, 後者 65.3 cm で共に小さい。荻野例は 80.5 cm その身長比 54.43 で阿部例に似て居り, 足立例は臀最大囲として 89.0 cm その身長比 56.9, 又小野四郎は骨盤囲(これは著者の方法と一致すると思われるが) 82.38 cm を報告して居る。

腸骨前上棘間径は 23.03±0.13 cm で高橋例 23.01 cm と一致する。鈴木例 224.83 mm は小さく, 五反田例 240.33 mm, 奥脇例 242.74 mm, 益野例 238.64 mm は何れも大きい。男性について見ると五反田例 237.38 mm, 益野例 238.24 mm, 奥脇例 231.54 mm で何れも著者例より僅かに大きいが大差ない。五反田, 益野, 奥脇は何れも女性が男性より大きいと述べて居るが, 反つて男性の方が大きいと述べて居る(西原)例もある。比腸骨前上棘間径は 15.45±0.09 であつて五反田例 16.16, 益野例 16.01, 奥脇例 16.35 は何れも大きい。男性では五反田例 14.80, 益野例 14.93, 奥脇例 14.47 の何れも小さく, 身長比から見ると五反田, 益野, 奥脇の各例の場合でも女性の方が大きいと述べて居る。

腸骨後上棘間径は 9.46±0.08 cm その身長比 6.30

±0.04 である。鈴木例は 95.56 mm で一致するが, 五反田例 82.00 mm その身長比 5.52, 益野例 80.79 mm その身長比 5.44 は共に小さい。腸骨前上棘間径では五反田, 益野両例共に著者例より大きい, 腸骨後上棘間径では反つて小さいことは注意を要する。男性について見ると五反田例 81.58 mm その身長比 5.13 益野例 79.80 mm その身長比 5.00 何れも小さく, 実測値では両者共にその女性例との間に性差を認めないが, 身長比では明らかに女性が大きいという。

腸骨橈間径は 26.89±0.12 cm, その身長比は 18.08±0.08 である。馬場例 29.5 cm その身長比 19.8 は報告例中最大で極めて大きく, 又阿部例も 27.81 cm で著しく大きい, 高橋例 26.12 cm その身長比 17.49 は稍々小さい。本多例 26.6 cm, 鈴木例 267.69 mm は略々一致する。五反田例 275.59 mm その身長比 18.51 益野例 273.93 mm その身長比 18.36, 奥脇例 270.89 mm その身長比 18.32 は皆いくらか大きい。男性について見ると田中例 26.83 cm は一致し, 五反田例 273.61 mm, 益野例 273.87 mm 両例は共に大きく, 奥脇例 264.46 mm は小さいが何れもその差は明らかでなく, 本多例は 26.3 cm で最も小さい。然し男性の身長比は田中例 16.94, 五反田例 17.04, 奥脇例 16.55 益野例 17.14 で何れも小さい。性差について実測値では益野, 五反田, 奥脇は女性の方が男性より大きいと述べて居るが, 西原は逆に男性が大きいと報告して居り意見が異なるが, 著者はそれらの男性例との間に性差を認めることが出来ない様思われる。然し身長比では著者も五反田, 益野, 奥脇, 阪本も女性の方が著しく大であると認める。

外結合線は 20.51±0.09 cm その身長比は 13.80±0.54 で報告例中著者例が最大で, 五反田, 益野両例が之に次ぎ, 最小は高橋例の 18.61 cm である。奥脇例 195.57 mm その身長比 13.19, 鈴木例 190.00 mm は小さいが, 五反田例 202.07 mm その身長比 13.57, 益野例 202.17 mm その身長比 13.59 では実測値は略々一致するが身長比は何れも僅かに小さい。男性について見ると五反田例 192.03 mm その身長比 11.98, 益野例 199.35 mm その身長比 12.43, 奥脇例 188.72 mm その身長比 11.79 で何れも小さいが殊に身長比では著しく小さい。性差について五反田, 奥脇, 西原, 阪本は各々女性の方が大きいとして居るが益野のみは有意差に至つて居ない。身長比では尚著しい差で女性が大きく, 著者の場合も従来報告されて居る男性例と比べると著差を以て女性が大きい。

外斜傾線は第1 21.54±0.09 cm その身長比 14.45±0.05, 第2 21.51±0.09 cm で差がない。阪本, 小野四郎の例では第2が大きいく, 小野肇, 大倉, 鈴木の例では第1が大きいくと言われて居るが, 何れもその差は極めて僅かである。高橋例 21.47 cm, 鈴木例は第1 213.15 mm 第2 213.14 mm, 五反田例 221.16 mm その身長比 14.90, 益野例 220.18 mm その身長比 14.78 で何れも大差はない。男性について見ると五反田例 220.53 mm その身長比 13.76, 益野例 218.51 mm その身長比 13.69 で, 著者例の女性と較べて実測値ではつきりした差がないが, 身長比では女性より小さい。五反田, 益野両例が性差について, 実測値では差を認めず, 身長比では女性が大きいくと述べて居る所と一致する。

側結合線は右 15.61±0.08 cm その身長比は 10.46±0.04, 左 15.61±0.07 cm で左右等しい。奥脇例は 155.61 mm その身長比 10.51, 鈴木例は右 154.44 mm, 左 154.72 mm で共に略々一致する。五反田例 160.39 mm その身長比 10.81, 益野例 163.07 mm その身長比 10.99 で共に大きい。男性について見ると五反田例 163.03 mm その身長比 10.19, 益野例 164.72 mm その身長比 10.34 で, 実測値では男性が大きいくがその身長比は反って女性の方が大きいく。奥脇, 西原は側結合線は男性の方が女性より大きいくと述べて居るが, 五反田, 益野はその差を有意差とは認めて居ない。但, 身長比では五反田, 益野共に著差を以て女性が大きいくと述べて居て, 各報告者の意見は著者と一致する。

大転子間径は 29.34±0.10 cm その身長比 19.70±0.05である。阿部例は 30.13 cm で大きく, 高橋例 28.55 cm, 鈴木例 286.51 mm, 奥脇例 285.9 mm その身長比 19.27 は何れも小さい。本多例は 29.2 cm で一致する。男性について見ると奥脇例 290.13 mm, 本多例 29.1 cm 共に大差はないが, その身長比は奥脇例 18.16 で著しく小さい。西原, 奥脇は共に実測値では男性の方が大きいくと述べて居るが, 性差は必ずしも明らかとは言えない。

骨盤傾斜度は 38.75°±0.67 で高橋例は 41.3° で大きい, 男性についての報告例はない。

楕円率数は 85.82±0.48 である。五反田例は 87.17, 益野例は 87.19, 奥脇例は 89.60 で何れも大きい。男性について見ると五反田例 86.74, 益野例 87.06, 奥脇例 87.63 は何れも大きい。五反田は女性>男性, 益野は男性=女性, 西原は男性>女性と報告して, 報告

者により一定しない。

骨盤幅深数は 76.42±0.30 であつて, 五反田例 73.42, 益野例 73.97, 奥脇例 72.13 は小さい。男性について見ると五反田例 70.21, 益野例 72.68, 奥脇例 71.21 は何れも小さい。五反田, 益野, 奥脇, 西原は何れも明らかに男性より女性の方が大きいくと述べて居る。

腰横径数(腸骨輪間径大転子間径比)は 91.56±0.33 である。特に比較すべき報告は見当らない。

胸腰囲数数は 103.26±0.45 で, 荻野例 99.08 は小さい。著者例は腰囲より胸囲の方が大きいくが, 荻野例は逆である。これは腰囲についての計測法の相違の爲であろう。

腹腰囲数数は 86.80±0.37 で, 荻野例 79.79 は小さい。

大腿囲は 42.78±0.31 cm で, 阿部例 44.23 cm, 本多例 45.4 cm 共にこれより大きい。男性について見ると本多例 46.8 cm, 中山例(宮崎人) 45.9 cm, 阪本例 47.5 cm, 土肥例 43.2 cm で何れも著しく大きい。但, 土肥例は受刑者についての計測である点注意を要する。

下腿囲は 31.26±0.18 cm その身長比は 20.97 で阿部例 32.49 cm その身長比 21.57, 本多例 32.6 cm その身長比 21.91, 中山例(宮崎人) 33.45 cm その身長比 22.91 共にこれより大きい。男性について見ると本多例 33.6 cm その身長比 21.13, 中山例 33.17 cm その身長比 21.34 で何れも著者例より大きいくが, 本多例・中山例では身長に対する割合からすると女性の方が大きいくと云える。又田代(1956)は熊本県のバス会社の男性(運転手) 60 名 32.60 cm 及女性(車掌) 39 名 32.68 cm について比較し, 両性間に差を認めず, 松本(1956)は熊本県八代郡の住民について男性 247 名に 32.39 cm~32.47 cm, 女性 227 名に 31.31 cm~31.52 cm で稍々男性の方が大きいくと云つて居るが, 何れも身長に対する割合から考えると女性の方が大きいくことになる。更らに阿部例の三体型と比較すると, 著者例は細長型と中肉型の略々中間に位する。著者例について分布図(図3)を作ると略々 28 cm から 35 cm の範囲にあり, これを阿部例の分布図と比較すると細長型の曲線の始まりと肥満型の曲線との中間位の部に相当する(中肉型の曲線は肥満型より稍々小さい方に寄つては居るが殆ど重なつて居る)。又太田(1933)の北海道にて日本人男性 1,340 名について調査した分布図と比較すると, 細長型の曲線の中程から

図 3

肥満型の曲線の中に相当する。興味あることは著者例の分布図では 30 cm 台の所に一つの谷が見られるが、これは阿部例に於ける細長型の曲線が下行して行く途中で中肉型の曲線が上昇して来る少し前、丁度阿部例の略々 31 cm 台の所に相当すると思われ、婦人の下腿型が細長型に於ける比較的細い群と、中肉型肥満型の比較的太い群とに分かれる様に思われる点である。

脚囲示数は 74.32 ± 0.30 で中山例の宮崎人 71.41, 福岡人 72.14 は何れも小さい。男性について見ると中山例の宮崎人 72.8, 福岡人 71.85 は何れも小さい。中山例の宮崎人は男性の方が女性より大きい、福岡人は逆である。

肩幅骨盤幅示数は 79.84 ± 0.37 である。本多例は腰幅：肩幅比として 77.7 で小さいが阪本例は軀幹幅径示数と名付け 81.46, 中山例は胴巾示数と称して福岡人 82.26, 宮崎人 83.11 で何れも大きい。男性について見ると本多例 70.1, 阪本例 77.34, 中山例の宮崎人 75.43, 福岡人 75.60 は何れも小さい。

肩腰横示数(大転子間径/肩幅 $\times 100$)は 87.21 ± 0.30 で阿部例 99.79 は著しく大きい。

肩幅胴長示数は 73.24 ± 0.30 で本多例 73.5 と略々一致する。男性についての本多例は 75.2 で大きい。

肩胸囲示数は 43.49 ± 0.18 で阿部例 37.88 は著しく小さい。

胸囲胴長示数は胸囲 I で見ると 168.95 で、本多例 166.3 は小さい。男性について見ると本多例は 172.7 で著しく大きく、本多例は男性の方が大きいとして居るが、日置例では性差を認めて居ない。

骨盤幅胴長示数は 58.56 ± 0.30 である。男性について

を見ると田中例は 53.79 で小さく、女性では胴長に対して骨盤幅が著しく大きいことを示して居る。

胸腹横示数(胸幅 B：骨盤幅比)は 87.38 ± 0.45 で阿部例 88.68 は僅かに大きい。

胸幅(B)：大転子間径比は 79.72 ± 0.32 であつて、他に比較すべき報告例を見ない。

II. 相 関 関 係

身長についての相関；対胸幅 B 相関は 0.59 である。林例は小学生について、男性 0.31~0.64, 女性 0.37~0.63 の相関を認めて居るが、荒木例は 0.19 で相関を認めて居ない。

対胸厚 B 相関は 0.15 で相関なく、林例は小学生について男性 0.29~0.64, 女性 0.20~0.54 の相関を認めて居るが、荒木例は著者例と同様 0.11 で相関を認める事が出来ない。

対胸廓示数 B. 相関は -0.15 で田中例の男性についての -0.11 と一致する。

対胸囲相関は 0.39 で弱い相関である。竹内例は 0.142, 足立例 0.23 と夫々相関を認めないが、林例は小学生について、男性 0.35~0.83, 女性 0.33~0.58, 加藤例は 0.46 と相関を認めて居る。荒谷は思春期前は 0.40~0.55 程度の相関を見て居るが、思春期后には急速に下降して殆ど相関を呈しないと云つて居る。

対胸骨長相関は 0.37 で弱相関があるが、荒木例は 0.28 で相関を認めて居ない。

対胸廓長相関は 0.65 で中等度の相関があり、荒木例は 0.49 で同じく相関を認めて居る。

対肩峰幅相関は 0.59 で竹内例 0.445, 林例は小学生について男性 0.34~0.74, 女性 0.36~0.69 と著者例と同様中等度の相関を見て居る。然し足立は -0.39 の逆相関を報告して居る。

対骨盤諸径の相関について見ると、腸骨前上棘間径 0.21, 腸骨後上棘間径 0.28 を除き、腸骨櫛間径 0.49, 外結合線 0.55, 側結合線 0.67, 外斜傾線 0.61, 大転子間径 0.65 と各々中等度の相関を見せて居る。腸骨前上棘間径については奥脇例では 0.26 で無意であるが、小野, 五反田, 益野は何れも 0.34~0.49 の相関を認め、男性についても各例は 0.30~0.40 の相関を見て居る。腸骨後上棘間径については小野例 0.18, 五反田例 0.29 と相関を認めて居ないが、益野例は 0.32 の相関を認める。男性について五反田例は 0.30 で漸く僅かの相関を認めるが、益野例は 0.13 で相関を認めない。その他の骨盤各径に対する相関は、各例とも著者例と同様中等度の相関を認めて居る。益野は

男女間の性差なしと言い、五反田は女性に於て僅かに大きいと云つて居る。西原は男性について大転子間径・外結合線は0.5以上、腸骨櫛間径・側結合線・腸骨前上棘間径は0.5以下と述べて居る。奥脇は男性については大転子間径相関が最高で0.73、腸骨櫛間径・外結合線・側結合線は0.5以上、腸骨前上棘間径のみは0.5以下、女性では側結合線が最高で0.62、大転子間・腸骨櫛間径は0.5以上、その他は0.5以下であると述べて居る。小野も身長と骨盤諸径間には密接な関係があり、特に対側結合線相関が最高で0.5957を報告して居る。

肩峰幅の相関関係；対胸幅B相関は0.64で、吉田例は男性(20~29才)0.49、(30~49才)0.50、女性(20~29才)0.40、(30~49才)0.47と略々男女同程度の相関を認めて居るが著者例よりも弱い。増川例は小学生について男性0.25~0.66、女性0.44~0.81と男性<女性の相関を見て居る。

対胸厚B相関は0.23で相関を認めない。増川例は小学生について男性0.12~0.67、女性0.18~0.58と略々相関関係を認めて居るが、男女間に有意の性差を認めて居ない。

対胸囲I相関は0.55で竹内例0.42、林例は小学生について男性0.12~0.63、女性0.39~0.62と同程度の相関を見て居る。

対胸廓横断面積B'相関は0.51で男性の田中例0.48と似て居る。

対上腹角相関は0.01で田中例0.07の男性と同様全く相関は見られない。

対腸骨櫛間径相関は0.40で、吉田例の男性(20才~29)0.40、(30~49才)0.40~0.46、女性(20~29才)0.29、(30~49才)0.42、竹内例の0.45と同程度の相関であるが、黒川例は0.78の高い相関を見て居る。

対大転子間径相関は0.58で中等度の相関であるが、対腸骨前上棘間径相関は0.28で相関を認めない。

胸幅Bの相関；対胸厚B相関は0.37の弱相関である。増川例は小学生について男性0.15~0.67、女性0.15~0.69、立野例0.37、武内例0.24を報告し不定であるが概して弱相関である。

対胸囲I相関は0.73の強い相関がある。林例は小学生について男性0.59~0.83、女性0.50~0.91、立野例0.798、武内例0.63、荒木例0.68で何れも著者例と同様に中等度以上の相関を見て居る。

対胸廓示数B₂相関は-0.37の逆相関である。

対胸廓横断面積B'相関は0.68で、立野例の0.74に略々近い相関である。

対胸骨長、対胸廓長右、対廓長相関は何れも認められない。成富例は対胸廓長相関について男女共に相関を認めず、対廓長相関については増川例は小学生について男性0.11~0.62、女性0.16~0.53で低学年には相関が見られるが高学年には相関を認めて居ない。

対腹部横径相関は0.46である。

対骨盤諸径との相関は、対大転子間径相関0.40のみ相関が見られるが、対腸骨前上棘間径、対腸骨櫛間径の相関は何れも無意に過ぎない。対腸骨櫛間径相関については吉田例は男性(20~29才)0.35、(30~49才)0.46、女性(20~29才)0.30、(30~49才)0.22、増川例は小学生について男性0.58~0.85、女性0.58~0.81と何れも相関を見て居る。

胸厚Bの相関；対胸囲I相関は0.51で中等度の相関を認めるが、胸幅対胸囲相関程強くない。林例は小学生の男性0.50~0.78、女性0.58~0.75、立野例0.596、武田例0.611、荒木例0.56で何れも中等度の相関を認めて居るが、何れも著者例と同様に胸幅対胸囲相関の方が強いことを認めて居る。

対胸廓示数B₂相関は0.69で、胸幅対胸廓示数相関の-0.37と逆の関係であることは当然であるが、程度は遙かに強い。

対胸廓横断面積B'相関は0.73で胸幅対胸廓横断面積相関0.68より僅かに強く、立野例も0.816で同例の胸幅対胸廓横断面積相関0.740より僅かに強いと述べて居る。

対∠SCD相関は0.21で無意である。

対胸廓長右相関は0.06で全く相関なく、成富は肺結核患者女性に逆相関を認めるが男性には相関を認めて居ない。

対腹部矢状径相関は0.43の弱い相関で、厚径同士であり乍ら弱相関に過ぎないのは腹部が皮下脂肪に大きく影響されて居る為であろう。

対骨盤諸径相関について見ると対腸骨櫛間径相関は0.21で無意に過ぎないが、黒川例は0.52の相関を認めて居る。対外結合線相関0.33、対外斜傾線相関0.37、対側結合線0.37で、何れも弱相関を示して居る。

胸囲の相関；対肩峰幅相関は0.55である(既述)。

対胸幅B相関0.73、対胸厚B'0.51(既述)で、胸厚より胸幅の方が胸囲とより密接な関係がある。

対胸厚B'+胸幅B相関は0.78で強い相関を示し、胸厚或いは胸幅単独の相関より、各々の和の相関の方

が強いという武内の報告と一致する。

対胸廓横断面積 B'' 相関は 0.90 で極めて強く、立野の報告 0.87 と一致する。

対胸廓示数 B_2 相関 0.01, 対胸廓長相関 0.19, 対上腹角相関 0.21 は何れもはつきりしない。対胸廓長相関については成富は肺結核患者について男女共に相関を認めて居ない。

対胸骨長相関は 0.31 で弱い相関が認められる。

対腹囲相関は 0.66, 対腰囲相関 0.69, 対大腿囲相関 0.71 と各周径間に何れも中等度以上の強い相関がある。林例は小学生について対腹囲相関男性 0.48~0.79, 女性 0.55~0.81, 対大腿囲相関男性 0.30~0.79, 女性 0.50~0.76 で何れも強い相関を認め、性差は殆どないと述べて居る。

対腸骨橈間径相関は 0.32 の弱相関であり、林例は小学生について男性 0.45~0.79, 女性 0.38~0.66 と著者例より強い相関を認めて居る。

胸廓横断面積 B'' 相関; 対胸幅 B 相関は 0.68, 対胸厚 B' 相関は 0.73 で胸厚の方が稍々密接な関係にあり、立野の報告と一致し、又渥美が胸廓の容積が増大するのは胸左右径よりも胸前後径の増減に左右されると述べて居るのとも一致する。

対胸廓示数 B_2 相関は 0.22, 対胸廓長相関 0.10, 対胸長相関 0.19 で各々相関は認められないが、対胸骨長相関は 0.39 で僅かに相関を認める。

腸骨橈間径の相関; 対腸骨後上棘間径相関 0.19 を除いて 対外結合線相関 0.43, 対腸骨前上棘間径相関 0.70, 対側結合線相関 0.56, 対外斜傾線相関 0.64, 対大転子間径相関 0.64 で、各々中等度の相関である。小野例も腸骨後上棘間径を除き、最高は対腸骨前上棘間径相関の 0.81、最低は対外結合線相関の 0.48 まで何れも強い相関を認めて著者例と一致する。永島例は対外結合線相関について 0.45 で著者例と略々一致する。

外結合線の相関; 対胸厚 B' 相関は 0.33, 対胸廓長相関は 0.31 で共に弱相関である。胸廓の厚径胸厚 B' と、骨盤の厚径である外結合線との間にはそれ程密接な相関はない。対胸厚 F 相関は 0.29 ではつきりしないが、今津は胸廓上口(即、胸厚 F)の計測を以て骨盤の広狭を推定するに足ると述べて居るが疑問である。

他の骨盤各径との相関について見ると、対腸骨後上棘間径相関 0.23 を除き中等度の相関がある。対腸骨前上棘間径相関 0.51 は小野例 0.37 より稍々強い相

関を示して居る。対側結合線相関は 0.61 で小野例 0.57, 五反田例 0.59, 益野例 0.50 と略々一致するし、男性について見て西原, 五反田, 益野は各々 0.49~0.60 の相関を認めて居て男女間の性差は認められない。対外斜傾線相関は 0.60 で小野例 0.59, 対腸骨橈間径相関は 0.43 で 永島例 0.45, 対大転子間径相関は 0.51 で小野例 0.51 と著者例と各報告とは一致して居る。

骨盤幅深示数の相関; 対胸廓示数 B_2 相関は 0.11 で無意である。

対骨盤諸径との相関は対腸骨前上棘間径相関 -0.48, 対腸骨後上棘間径相関 0.02, 対腸骨橈間径相関 -0.61, 対外斜傾線相関 -0.09, 対側結合線相関 0.05, 対外結合線相関 0.54, 対大転子間径相関 -0.16 対 $\left(\frac{\text{側結合線}}{\text{外結合線}} \times 100\right)$ 相関 -0.33 であつて小野例と略々一致する。然し奥協例の対腸骨橈間径相関は -0.29 ではつきりして居ない。

その他の相関関係; 腰点高対頸点高及臍高相関は各々 0.85, 0.82 胸骨上縁高対恥骨結合高相関は 0.86 で各長径同士の間は相関は何れも高度である。胸骨長対胸廓長相関は 0.27 で相関なく、成富は肺結核患者について男性には相関ないが女性には相関を認めて居る。∠SCD 対骨盤傾斜度相関は 0.06, 腹部横径対腹長相関は -0.10 で共に相関を認められず、上腹角対胸廓横断面積 B'' 相関は 0.33 で男性についての田中例 0.42 はさらに強い相関を認めて居る。大腿囲対腰囲, 腹囲及下腿囲相関は各々 0.61, 0.59, 0.77 で中等度から高度の相関がある。然し満留例は小学生について男性 0.09~0.56, 女性 0.16~0.50 の比較的低い相関を報告して居る。

総 括

著者例の身長は 149.09 cm で、文献による日本婦人の身長と較べると略々中位である。諸報告中、身長が著者例に最も接近せる値を有するのは、馬場例の 149.3 cm, 高橋例の 148.9 cm, 本多例の 148.8 cm であり、又阿部例は 150.60 cm で稍々大きい。

阿部例は満 18 才から 58 才に至る成熟婦人についての計測値であるが、その各長径(胸骨上縁高・恥骨結合高・腸骨前上棘高)と著者例のそれらとの間には何れも殆ど差がないが、唯肩峰高 123.22 cm のみは著者例 120.58 cm より明らかに高く ($Q = -5.08$)、阿部例は著しい怒り肩を示して居る事は注目される。又肩峰幅について著者例 33.67 cm に対して阿部例 30.00 cm は著明に小さい ($Q = 22.94$) 点が特長である。従

つて身長比の開きはさらに大きくなる訳である。さらに胸郭について見ると、胸郭長は阿部例では 16.64 cm で著者例 14.01 cm よりも著しく大きい ($Q = -15.47$) 又胸郭長・胸幅・胸厚・胸囲の何れも阿部例は明らかに大きい。胸郭示数では阿部例 72.80 で著者例 68.52 よりも明らかに大きく ($Q = -8.56$) 阿部例の胸郭の方が厚味がある。然し比胸囲では、はつきりした差は見られない。又腹囲・腰囲・大腿囲・下腿囲の各周径について較べても阿部例は明らかに大きく、一般的に見て阿部例の体格は著者例より優つて居る。胴長 ($Q = -5.57$) 及び比胴長 ($Q = -5.83$) 共に阿部例は著者例より大きく、又肩幅に対する大転子間径 (肩腰横示数著者例 87.21・阿部例 99.79 ($Q = -28.59$) から分るように、阿部例では肩幅幅と大転子間径両者が殆ど同じ大きさである事は著しい特長である。

馬場例は大妻技芸女学校生徒の 14~31 才を計測したのであるが、その中 22~31 才の群を比較に選ぶと、一般的に著者例と殆ど同じ大きさを示して居るにも不拘、胸囲 (著者例 77.64 cm・馬場例 79.6 cm $Q = -1.75$) 比胸囲 (著者例 52.20・馬場例 56.4 $Q = -9.77$) 腸骨橈間径 (著者例 26.89 cm・馬場例 29.5 cm $Q = -7.56$) 比腸骨橈間径 (著者例 18.08・馬場例 19.8 $Q = -6.14$) に於て馬場例は著者例よりも明らかに大きい。坐高は著者例 81.61 cm 馬場例 83.7 cm $Q = -2.71$ で有意差には至らないが、比坐高は馬場例 56.7 は著者例 54.89 $Q = -5.65$ よりも著しく大きい。然るに胴長 (著者例 46.04 cm・馬場例 46.9 cm $Q = -1.32$) 比胴長 (著者例 30.95・馬場例 31.4 $Q = 1.32$) では二群の間に殆ど差がないのは注目される。又胸郭示数について見ると、馬場例は 64.8 で著者例 68.52 より明らかに小さく ($Q = 3.88$)、馬場例の胸郭は著者例よりも可成り扁平に傾いて居る。

高楠例は 20 才から 40 才までの京城に於ける日本婦人であるが、胸骨上縁高 (著者例 120.58 cm・高楠例 122.1 cm $Q = -3.62$) 肩峰高 (著者例 120.58 cm・高楠例 123.1 cm $Q = -5.48$) 腸骨前上棘高 (著者例 80.44 cm・高楠例 81.5 cm $Q = -3.12$) は皆高楠例の方が大きいのに、比坐高 (著者例 54.89・高楠例 54.30 $Q = 4.21$) 胴長 (著者例 46.04 cm・高楠例 40.57 cm $Q = 27.35$) 比胴長 (著者例 30.95・高楠例 27.13 $Q = 38.20$) 等は反つて小さい。尚その上に肩峰幅 (著者例 33.67 cm・高楠例 31.9 cm $Q = 12.64$) 比肩峰幅 (著者例 22.65・高楠例 21.34 $Q = 14.56$) 腸骨橈間径 (著者例 26.89 cm・高楠例 26.12 cm $Q = 6.42$)

大転子間径 (著者例 29.34 cm・高楠例 28.55 cm $Q = 6.58$) 等も皆明らかに小さく、胸囲 (著者例 77.64 cm・高楠例 75.7 cm $Q = 4.97$) も細い。さらに外結合線 (著者例 20.51 cm・高楠例 18.61 cm $Q = 19.0$) も著しく小さく、高楠例の骨盤は著者例に較べて幅狭く且扁平である。従つて高楠例は全般に体格が細長に傾き胴部が小さい。

本多例は石川県能登島島民で農・漁業民の 18 才から 49 才までの婦人であるが、著者例と身長では差はないが全般に明らかに幅径がよく発達して居る。肩幅 (著者例 33.67 cm・本多例 34.3 cm $Q = -4.28$) 胸幅 (著者例 23.4 cm・本多例 24.8 cm $Q = -4.28$) 胸厚 (著者例 16.02 cm・本多例 16.7 cm $Q = -4.86$) は本多例では著者例より明らかに大きい。周径について見ると胸囲 (著者例 77.64 cm・本多例 77.6 cm $Q = 0.08$) 比胸囲 (著者例 52.20・本多例 52.0 $Q = 0.59$) は著者例と一致して居るが、腰囲 (著者例 75.54 cm・本多例 67.2 cm $Q = 13.24$) は著者例の方が大きいにも不拘、大腿囲 (著者例 42.78 cm・本多例 45.4 cm $Q = -6.55$) 下腿囲 (著者例 31.26 cm・本多例 32.6 cm $Q = -4.32$) は反対に本多例の方が明らかに大きい。又肩幅に対する骨盤幅の大きさ (肩幅骨盤幅示数著者例 79.84・本多例 77.7 $Q = 4.28$) は本多例の方が小さいが、胴長に対する胸囲 (胸囲胴長示数著者例 168.95・本多例 166.32 $Q = 1.92$) 或は肩幅 (肩幅胴長示数著者例 73.24・本多例 73.5 $Q = -0.53$) の割合では殆ど差がない。

著者例の身長と有意差のない身長を有する五反田・益野・奥脇・鈴木の各例について骨盤の特長を比較考察して見ると、五反田例の腸骨前上棘間径・腸骨橈間径・外斜傾線・側結合線は著者例より明らかに大きく、腸骨後上棘間径だけは反つて著しく小さく、又外結合線では殆ど差がない。外結合線では差がないのに腸骨橈間径は五反田例の方が大きい為に、骨盤幅深示数は五反田例の方が著者例より小さくなつて居り、著者例の骨盤は五反田例のそれよりも円味が強いことを示して居る。又橈棘示数では差が見られない。益野例の骨盤はその計測値並に示数共に五反田例に略々一致し、著者例との差も、著者例と五反田例との差に全く一致する。奥脇例について較べると腸骨前上棘間径は著者例のそれよりも大きく、外結合線・大転子間径は反対に小さく、腸骨橈間径・側結合線では殆ど差がない。腸骨橈間径では差がないのに外結合線では奥脇例は著者例より小さい為に骨盤幅深示数は奥脇例の方が

小さく、又腸骨前上棘間径は奥脇例の方が大きい為に、
 橈棘示数は奥脇例の方が大きい。更に鈴木例と比較すると腸骨前上棘間径・外結合線・大転子間径では著者例よりも小さいが、その他の腸骨後上棘間径・外斜傾線・側結合線では略々一致し、鈴木例の骨盤は著者例よりも全般に小柄ではあるが形は極めて似て居る。

相関について見ると身長は胸幅 ($r=0.59$) 胸囲 ($r=0.39$) 肩峰幅 ($r=0.59$) 胸骨長 ($r=0.37$) 胸廓長 ($r=0.65$) 及び腸骨橈間径 ($r=0.49$) 外結合線 ($r=0.55$) 外斜傾線 ($r=0.61$) 側結合線 ($r=0.67$) 大転子間径 ($r=0.65$) の骨盤諸径と密接な相関があるが、腸骨前上棘間径 ($r=0.21$) 腸骨後上棘間径 ($r=0.28$) とは相関が見られない。然し小野(肇)・五反田・益野は身長と腸骨前上棘間径について $r=0.35\sim0.49$ の相関を認めていて著者例と必ずしも一致しないが、奥脇例は ($r=0.26$) 一致している。肩峰幅と有意の相関を示すものは胸幅 ($r=0.64$) 胸囲 ($r=0.51$) 腸骨橈間径 ($r=0.40$) 大転子間径 ($r=0.58$) である。同じ軀幹の幅径でも腸骨前上棘間径 ($r=0.28$) とは余り密接な関係はない。胸幅は胸厚 ($r=0.37$) 胸囲 ($r=0.73$) 胸廓横断面積 ($r=0.68$) 大転子間径 ($r=0.40$) 腹部横径 ($r=0.46$) 大腿囲 ($r=0.44$) と相関があり、同じ幅径でも腸骨前上棘間径 ($r=0.19$) 腸骨橈間径 ($r=0.26$) とは大体相関が認められない。胸厚は胸囲 ($r=0.51$) 胸廓示数 ($r=0.69$) 胸廓横断面積 ($r=0.73$) 外結合線 ($r=0.33$) 側結合線 ($r=0.37$) 外斜傾線 ($r=0.37$) 腹部矢状径 ($r=0.43$) と相関がある。然し同じこの軀幹の厚径の間に見られる順相関は、幅径の場合よりも明らかである。胸囲は胸骨長 ($r=0.31$) 胸廓横断面積 ($r=0.90$) 胸厚・胸幅 ($r=0.78$) 腹囲 ($r=0.66$) 腰囲 ($r=0.69$) 大腿囲 ($r=0.71$) と密接な相関があるが、上腹角 ($r=0.21$) 胸廓示数 ($r=0.01$) 胸廓長 ($r=0.19$) との間には相関が認められない。胸廓横断面積は上腹角 ($r=0.33$) 胸骨長 ($r=0.39$) と相関を有するが、胸廓示数 ($r=0.22$) 胸廓長 ($r=0.10$) 胴長 ($r=0.19$) とは相関を認めない。又前述の如く、胸廓横断面積と胸幅 ($r=0.68$) 胸厚 ($r=0.73$) とは極めて高度の相関があり、殊に胸厚は密接な関係があるが、胸囲の場合は反対に胸厚よりも胸幅の方がより密接な相関を示して居る事は注目される。外結合線は胸廓長 ($r=0.31$) 腸骨前上棘間径 ($r=0.51$) 腸骨橈間径 ($r=0.43$) 外斜傾線 ($r=0.60$) 側結合線 ($r=0.61$) 大転子間径 ($r=0.51$) との間には順相関があり、殊に骨盤の厚径同士である外斜傾線・

側結合線とは、幅径である腸骨前上棘間径その他よりも強い相関を示して居るが、胸廓の厚径である胸厚とは $r=0.33$ でそれ程密接な関係は見られない。腸骨橈間径は腸骨前上棘間径 ($r=0.70$) 側結合線 ($r=0.56$) 外斜傾線 ($r=0.64$) 大転子間径 ($r=0.64$) と密接な相関がある。腸骨後上棘間径は外結合線・腸骨橈間径何れとも全く相関は見られない。骨盤幅深示数は骨盤の扁平度を現わすものであるから、腸骨前上棘間径 ($r=-0.48$) 腸骨橈間径 ($r=-0.61$) と逆相関で、外結合線 ($r=0.54$) とは順相関を示すのは当然であるが、 $\frac{\text{側結合線}}{\text{外結合線}} \times 100$ とは $r=-0.33$ で僅かではあるが逆相関を示して居ることは、側結合線が大きくなると骨盤の扁平度が増すことを現わし、後に述べる男性の側結合線が女性に比べて割に大きいことと考え合わせると興味がある。この相関については小野肇は $r=-0.57$ と著者例よりも更に強い逆相関を認めて居る。更に胸廓の扁平度を現わす胸廓示数との間には ($r=0.11$) 相関を認めない。胸廓上口の角度である $\angle SCD$ と骨盤傾斜度との間には $r=0.06$ で相関はない。以上の相関は、林等・五反田・益野・奥脇・及びその他の報告者の述べて居る相関関係を略々一致する。

田中の男性例について性差を見ると最も大きな特長は、女性が身長に割に坐高(比坐高著者例 54.89・田中例 54.37 $Q=3.25$) 骨盤幅(比骨盤幅著者例 18.08・田中例 16.94 $Q=10.36$) が大きく、又胴長に対しても骨盤幅(骨盤幅胴長示数著者例 58.56・田中例 53.79 $Q=10.6$) が大きい点である。比坐高が女性で大きいにも拘り、比胴長(著者例 30.95・田中例 31.65 $Q=-5.0$) は男性の方が大きいことは興味がある。これは女性に於ては頭部頸部が男性より大きく、且臀部の発達が良い為であろう。その他は全て男性が大きい。大腿囲・下腿囲について本多例その他の男性例と比べると女性では身長に割に大きい傾向がある。次に胸廓について見ると、胸厚では胸廓上部即、比胸厚 F (著者例 7.92・田中例 7.51) G (著者例 8.28・田中例 7.85) H (著者例 10.24・田中例 10.15) の方が下部の B' (著者例 10.82・田中例 11.31) D' (著者例 11.62・田中例 10.61) よりも女性では割に厚い傾向を持つて居る。胸囲は胸囲 I (比胸囲 I 著者例 52.50・田中例 54.31 $Q=-6.59$) は男性の方が大きく、胸囲 II (比胸囲 II 著者例 52.60・田中例 52.01 $Q=1.64$) は反対に女性の方が大きい割合を示して居り、胸廓横断面積について比較すると (B' 著者例 427.84 cm^2 ・田中例 521.86 cm^2 $Q=-16.64$ D' 著者例 451.26

cm²・田中例 511.07 cm² $Q = -9.57$ 男性例は何れも女性例よりも大きい。男性では B''(胸囲Ⅰの高さ)の方が D''(胸囲Ⅱの高さ)より大きく、女性では此の逆で胸囲に於ける関係と一致する。更に胸廓示数について比較してみると、B₂(著者例 68.52・田中例 71.49 $Q = -5.03$) D₂(著者例 72.40・田中例 70.56 $Q = 3.02$)で胸廓上部は男性の方が円味を持ち、下部は扁平に偏り、女性は胸廓上部は扁平で下部は反つて逆に円味を帯びて居る。これらは男性の胸廓上部では大胸筋のよく発達して居る影響が強く、胸廓下部では女性の場合乳房の発達の影響が強い為である。胴長に対する胸幅 B(胸幅示数 B₁ 著者例 50.84・田中例 51.12 $Q = -0.78$)及び D(胸幅示数 D₁ 著者例 52.07・田中例 53.30 $Q = -2.93$)や $\angle SCD$ (著者例 78.41°・田中例 77.18° $Q = 1.86$)では殆ど差がない。又田中が胸廓横断面積と肩峰幅・上腹角・胸廓示数・胸骨長・胴長さらに肩峰幅と上腹角、胸囲と上腹角・胸廓示数、及び身長と胸廓示数について相関を調べて居るが、田中例の胸囲対上腹角相関は $r = 0.38$ であるのに著者例は 0.21 を示すに過ぎないのを除いて略々著者例と一致する。然し全般にそれらについては男性の方が稍々相関度が強い傾向である。尚性差についての阿部の所見によれば全ての計測値は男性が優つて居るが、腸骨間径・大転子間径は明らかに女性が大きいということである。著者例で検討すると腸骨間径は身長に対する比では女性の方が大きい。実測値は女性が必要しも大きいとは言えない。然し大転子間径は実測値について見ても女性の方が大きいことは阿部の所見と一致して居る。又阿部は胸囲・腰囲・下腿囲も女性の方が大きいと述べて居るが、著者例で見ると腰囲は女性の方が大きく、下腿囲は男性例の方が大きい。胸囲では実測値は明らかに男性の方が大きい。身長比では胸囲Ⅰは男性の方が大きいにも拘らず、胸囲Ⅱは反つて女性の方が大きいことは前述の通りである。又阿部は更に腰・骨盤の幅が胸廓の幅に対して大きい割合を示して居ると述べて居るが、これは著者例の比胸幅 B15.77 に対して比骨盤幅 18.08 で著しく比骨盤幅の方が大きいのに田中例では、比胸幅 B16.12 に対して比骨盤幅 16.94 で殆ど差がない点、又比大転子間径は著者例 19.70 であるのに奥脇例の男性では 18.16 である点から考慮すると阿部の意見に同意出来る。次に骨盤の性差について五反田・益野・奥脇の男性例と比較して見ると身長に対する割合では全ての径で女性が優り、女性の骨盤の方がよく発達して居る。実測値について見

ると男性が大きいのは腸骨前上棘間径・外斜傾線・側結合線で、それも前二者は側結合線程大きくない。又腸骨間径では僅かの差しか認められない。示数値では楕円示数のみが五反田・益野例について見るところでは男性の方が大きい傾向が見られる。五反田・益野・奥脇が各々の男女間に性差について述べて居る所は、著者例でも同意出来るのであるが、唯腸骨前上棘間径で女性が大きいとして居る点だけは同意出来ない。今少し詳しく各計測値について考察して見るに、まづ側結合線(著者例 15.6 cm)は何れも(五反田例 163.03 mm $Q = -5.75$ ・益野例 164.72 mm $Q = -7.82$ ・奥脇例 160.60 mm $Q = -4.09$)明らかに男性が大きい。大転子間径(著者例 29.34 cm・奥脇例 290.13 mm $Q = 2.06$)では、特に奥脇例の場合女性は 285.9 mm であるから、これに対して男性が著しく大きいとされて居るが著者の場合は反つて奥脇の男性例より大きい位で、これとの間に殆ど差がない。外結合線について奥脇・五反田の例は特に明らかな性差を見せて居り、これは著者例と一致して居る。又腸骨前上棘間径では奥脇例の場合明らかに女性の方が大きいとされて居るが、著者例では同意出来ないこと前述の通りである。市川(1956)は関東人の乾燥靱帯骨盤について男性 110 例、女性 107 例を調査して、最大骨盤幅(男性 260.45 mm 女性 254.60 mm $Q = 3.74$)は男性が大きく、腸骨後上棘間径(男性 69.09 mm、女性 74.46 mm $Q = -4.48$)は女性が大きく、外直径(男性 179.20 mm、女性 182.38 mm $Q = -2.27$)・腸骨前上棘間径(男性 227.27 mm、女性 222.19 mm $Q = 2.41$)でははつきりした差を見て居ない。又外斜傾線では右(男性 200.99 mm、女性 197.89 mm $Q = 3.10$)左(男性 197.55 mm、女性 197.42 mm $Q = 0.29$)で、右では男性の方が大きい。左では差がはつきりしないと述べて居る。これを著者例と比べると全般に著しく小さいが、性差については著者と一致する。以上骨盤についての性差をまとめると胸廓とは反対に女性の方が男性より明らかに発達がよいばかりでなく形の上でも著しい差がある。第1に男性の骨盤は外結合線が短く骨盤幅深示数は小さくて明らかに扁平である。第2に男性では腸骨後上棘間径が小さく骨盤腔の背側は狭い。第3には女性の楕円示数は小さく腸骨前上棘間径に対して腸骨間径が大きい事を示し、腸骨翼が頭側外側に展開して居る。即ち、女性骨盤の方が男性のそれより寛やかである。又骨盤に於ける相関について五反田・益野・西原が各々の相関には特に男女間に差は見られないと述べて居

るが、著者の検討した結果もこれに一致する。

結 論

成熟日本婦人 143 名の一般的身体計測のみならず、胸郭各部並に骨盤について計測し次の様な結果を得た。

著者例の身長は 149.06 cm で日本婦人の報告例中略々中位にあたる。主な測度を挙げると、坐高 81.61 cm, 胴長 46.04 cm, 肩峰幅 33.67 cm, 胸郭長右 26.55 cm, 胸幅(B) 23.40 cm, 胸厚(B') 16.02 cm, 胸囲(I) 77.64 cm, 腹囲 65.54 cm, 腸骨上前棘間径 23.03 cm, 腸骨横間径 26.89 cm, 外結合線 20.51 cm, 腰囲 75.54 cm, 大転子間径 29.34 cm, 大腿囲 42.78 cm, 下腿囲 31.26 cm である。

既出の日本人女性例と比較する為に著者例の身長と最も接近した身長を持つ馬場例、高楠例、本多例と僅かに高いが阿部例を選んだ。阿部例に較べて著者例の体格は全般に細長に傾いて居る。馬場例では著者例よりも身長割に胸部の発達が優つて居るが、胸郭は扁平であることが特長である。高楠例では著者例より体格全般に細長に傾き、短胴で且骨盤は扁平である。本多例は身長を始め各長径は殆ど差がないが、幅径が発達し下肢も発育が良い。骨盤についてさらに検討すると、五反田例・益野例は著者例より全般に発達がよく、骨盤の円味が強い。奥脇例の骨盤は著者例より尚扁平で、鈴木例の骨盤はその形状は著者例に良く似て居るが、全般に小柄である。

男女の性差について見ると、女性の体型は男性の体型よりも全般的に小型であるばかりでなく著しい特長を持つて居る。まず坐高及胸部幅径が身長割に女性の方が大きい、胴長は逆に小さい。又下肢の周径は女性では身長割に大きい。胸郭では全般に男性の方が女性より著しく発達して居るが、胸郭上部は男性の発達がよく、胸郭下部は女性の方が乳房の影響で発達がよい。骨盤は胸郭と反対に女性の方が男性のそれより著しく発達して居る上、女性骨盤は男性のそれより寛達であつて男性骨盤は著しく扁平であり、腸骨翼は女性の場合は外側に展開を示して居る。

相関関係について見ると、身長と胸郭又は骨盤の大きさとの間に密接な相関がある。胸幅と骨盤の横径との間に相関はないが、胸厚と骨盤縦径との間には順相関が見られる点は注目される。骨盤の横径と縦径との間にも順相関が認められる。そしてそれらについて林等、五反田、益野、田中及その他の報告者の述べる所と一致し、又男女間の性差については大差なく殆ど一

致する。

稿を終るに臨み御懇篤なる御指導と御校閲を賜りました恩師横尾安夫教授に心から感謝の意を表します。

文 献

- 1) 阿部正直：日医大誌，22，(4)，(1955)
- 2) 高楠 宋，他：日本婦人科学会誌，34，(4)，(1939)
- 3) 馬場常澄：人類学人類遺伝学体質論文集，9 (1947)
- 4) 本多幸男：十全会誌，47 (3)，(1941)
- 5) 林 節子・満留 勇・増川允通・黒川佐太郎：人類学人類遺伝学体質論文集，21，23，25，(1955, 1956)
- 6) 五反田良精，他：東京慈大解剖業績集，23 (1956)
- 7) 益野外志雄，他： " " " "
- 8) 奥脇秀雄： " " " 8，(1952)
- 9) 鈴木七郎：産婦人科の世界，3 (2) (1950)
- 10) 田中康夫：日医大誌，21 (12) (1954)
- 11) 泉 正夫：鹿児島大誌，9 (6) (1958)
- 12) 阪本 基，他：日本内分泌学会誌，11，579 (1935)
- 13) 山口 清：産科と婦人科，14 (5) (1947)
- 14) 中山種秋，他：熊本医学会誌，30 (10, 11) (1956)
- 15) 円栗 幸，他：女子医学研究，20 (3, 4) (1950)
- 16) 吉田和也：熊大解剖業績集，17 (1953)
- 17) 渥美 浩，他：日本衛生学会誌，9 (2) (1954)
- 18) 飯田三郎：児科雑誌，316 (1926)
- 19) 東福寺 智：東京慈大解剖業績集，16 (1957)
- 20) 尼子 正：人類学誌，58 (1) (1953)
- 21) 荒木 大：体質医学研究所報告，5 (3) (1955)
- 22) 土肥直方：人類学人類遺伝学体質論文集，14 (1949)
- 23) 荻野彰久：民族衛生，21 (1) (1954)
- 24) 小野四郎：産科と婦人科，10 (4) (1942)
- 25) 西原四良，他：東京慈大解剖業績集，6 (1952)
- 26) 太田清之：神経誌，36，393 (1933)
- 27) 田代哲郎：熊本医学会誌，30 (8) (1956)
- 28) 松本 司： " " " 11) (")
- 29) 日置隆典夫，他：十全会誌，38 (13) (1933)
- 30) 竹内茂代：民族衛生，2 (5) (1933)
- 31) 足立智恵子：東京医学会誌，57 (2) (1943)
- 32) 荒谷秀治：民族衛生，7 (3) (1939)
- 33) 小野 肇：東京慈大解剖業績集，7 (1952)
- 34) 立野君子：民族衛生，12 (5) (1944)
- 35) 武内純四郎：奈良医学会誌，5 (1) (1954)
- 36) 成富武章：体質医学研究所報告，5 (3) (1955)
- 37) 今津 茂，他：臨牀産科婦人科，19 (3) (1944)
- 38) 永島良之輔：日婦人科学会誌，24 (7) (1929)
- 39) 市川 博：東京慈大解剖業績集，15 (1956)

Résumé

Body form of the Japanese female

Zyozi Koyama

Department of Anatomy

Nippon Medical School

(Prof. Y. Yokoh)

143 Japanese females are measured for the study of the body form. The stature is 149.06 cm, the sitting height 81.61 cm, the length of trunk 46.04 cm, the thorax is 26.55 cm long at right, 23.40 cm wide and 11.75 cm thick, its girth 77.64 cm at the

height of mesosternale, the biacromial width 33.67 cm, the abdominal girth 65.54 cm, the cristall breadth of pelvis 26.89 cm, its fore spinal width 23.03 cm, its external diagonal diameter 20.51 cm, the lumbar girth 75.54 cm, the bitrochanter breadth 29.34 cm, the femoral girth 42.78 cm and the leg girth 31.26 cm. When compared our females with those of Baba, Takakusu, Honda and Abe, which have almost the same statures, there is a little difference between them. Compared with those of Abe our females are a little more slender, with those of Baba ours are of shorter trunk with a little thick thorax, with those of Takakusu a little more thick with a longer thorax and less flat pelvis, with those of Honda all the breadths are a little smaller with slender lower extremity.

When the pelvic portions are compared with other authors about the Japanese female the following differences are observed. In comparison with ours those of Gotanda and of Masuno are each a

little longer with more thickness, those of Okuwaki a little less thick, those of Suzuki a little smaller in all.

When the body form of our Japanese female compared with that of the Japanese male of Tanaka, except stature there are following sexual differences. The sitting height and breadths of trunk in relation to stature are larger by the female, while the length of trunk smaller. The girth of the femur and leg are also comparably larger.

As for the thoracal region, the upper part has a smaller, the lower on the contrary larger relative girth by the female compared with the male, as for the pelvic part the relative measurements are always large with more diverging wing by the former.

As for the correlation between thorax and pelvis, there is an intimate positive correlation in the sagittal diameter, while in the breadth not.